

平成30年度 第7回 四万十町文化的施設検討委員会 議事録

日 時 平成31年3月16日(土) 13:30～16:30

会 場 四万十町役場本庁 東庁舎1F 多目的大ホール

出席委員 内田純一、谷口和史、林 一将、山本哲資、高垣恵一、林 伸一、
川添節子、青木香奈子、酒井紀子、刈谷明子、友永純子、中平浩太

欠席委員 池田十三生、田邊法人、下元洋子

事 務 局 熊谷敏郎教育次長

生涯学習課(林瑞穂課長、味元伸二郎副課長、森山典将主幹、松田佐穂主任)

図書館・美術館(長木千葉美、谷脇八代美、山口香、山地順子、武内真紀)

1 開 会

(事務局)

皆さん、こんにちは。

定刻になりましたので、平成30年度第7回文化的施設検討委員会を始めたいと思います。

まず、内田委員長より挨拶をお願いします。

(内田委員長)

改めまして皆さん、こんにちは。日曜の年度末でお忙しいところを集まっていたいてありがとうございます。

この検討委員会も7回目を迎えます。文字通り四万十町の文化的拠点づくり、文化の香る四万十町づくりをどう考えたらいいのかを検討して参りました。地域づくりや施設づくりでは「つくる」がキーワードになると感じます。さらに言うなら、広がりながらみんなで作るこのプロセスを大事にしてきた委員会だと思います。

今日は、今後の進め方についてもご協議いただきますが、進めてきて蓄積したものを大切にしながら、今日もご協議いただければと思っております。よろしくをお願いします。

2 議 事

(内田委員長)

それでは議事に入ります。

第 6 回で基本構想をまとめてそれをパブリックコメント等にかかけました。構想に大きな変更点はございませんので、改めて確認させていただこうと思います。

今日の議題は今後のスケジュールが大きな点となります。それから「今後の」と言った時に具体的には、基本構想が終わって基本計画に入っていくわけでした、その後、建設実施計画、建築と進んでいきます。

その意味では大変大事な基本計画に入りますので、その具体的なイメージについて、金額等についても岡本さんにお話しいただきながら、協議を続けるような回にしていきたいと思えます。

お手元にある年間スケジュール表をご覧ください。

(事務局)

年間スケジュールを事務局案として作りました。

3/16 が本日の会となっております。

次が 4/21 で、31 年度の第 1 回目の検討会を行いたいと思っております。翌日 4/22(月)ですが、図書館職員向けの研修会をやってはどうかということで、指宿市立図書館の下吹越館長に来ていただいて、一般の委員さんにも聞いていただければ有難いですが、実際の図書館での動きといった研修をしていただくように考えております。

5/26 は、渡辺梓さんという方に講演会をしていただきたいと思っております。この渡辺さんについては、ARG 岡本さんにご説明いただきます。

(ARG 岡本)

渡辺梓さんは横浜にお住まいの女優さんです。仲代達也さんのお弟子さんで、仲代さんの養成塾の出でして、20 年ほど前の朝の連ドラ『和っこの金メダル』で主役をされています。ですので比較的上の主婦層の方にはよく知られているのではと思います。最近は舞台の活動が多いです。一時はドラマ『相棒』などのサスペンスで、「犯人と匂わせずに実は犯人だった」という役柄をやっておられます。

お招きしたいと思った理由は、私どものオフィスと同じところに入っていて、「町中で活動する女優さん」という活動をされています。今回の文化的施設にぴったりかと思っています。私たちのオフィスが入っているビルには企業型託児施設があります。そこで子どもたちに読み聞かせをされています。旦那さんはもともと舞台道具を作る美術作家さんでして、今はご夫婦でユニットを組んで美術活動もされています。いわゆる「えらい女優さん」としてではなく、市井に生きる女性・妻・母親として、創作活動に励みながら女優もされています。

また古民家等の改修・リノベーションといった仕事もされていて、私たちのオフィスも渡辺さんのユニットにリノベーションしてもらっています。

単に女優の話ではなく、一人の市民として自分がどんな創作活動をされているかをお話しただけだと思っております。

事務局からご依頼があってどういう人がいいかといった時に、文化的施設に関してなるべく広く町内の関心を持っていただく上で、シニア層にご理解いただいたほうがいいんじゃないかということで。ですので20年前のドラマに出演しているという点で、当時は20～30代の主婦層には「ああ、あの人ね」と分かっていただけじゃないかと思い、渡辺さんをと考えた次第です。

(事務局)

ありがとうございます。

この講演で住民にできるだけ文化的施設に関心を持っていただくことに繋げていきたいと思っております。

6月に第2回目の検討会をして、今年については愛媛県内子町の図書館に視察に行きたいと考えております。

7月に図書館フォーラム的なことを四万十町でやったらということで、住民にお集まりいただいて、委員さんにパネラーをしていただいてシンポジウム的なものになるのかそれは分かりませんが、そういう形で住民に声をもっと広めていきたい、分かっていたかのためにこういう活動もしているということで、その活動をしていきたいと考えております。

8/12に猪谷千香^{いがや}さんの講演会を行います。この方についても、岡本さんをお願いします。

(ARG 岡本)

猪谷さんはジャーナリスト、文筆家ですね。数年前に『つながる図書館』を書かれまして、それが図書館をテーマにした本では業界で一番のベストセラーと言っていいと思います。特に2010年代以降の図書館のトレンド、流行り物的な部分から不易流行を的確に捉えた本を書かれています。

また最近では、岩手県紫波町が「持続可能な町づくり」の観点で注目されていますが、この紫波町の取り組みを紹介した『町の未来をこの手でつくる』（幻冬舎）も大変売れています。そういう意味では、「図書館を核にした町づくり」というテーマの第一人者と言ってよいかと思います。

もともと新聞記者をされていた方です。現在はフリーのジャーナリストの形で活動されています。小2の娘さんがいるお母さんでもありますね。

ちょうど日本各地で、新図書館を作る際の講演会をされていますので、幅広い示唆を受けられるんじゃないでしょうか。それとご本人もよく図書館を利用されている方でもあるのと、最近ですと小2の我が子をインターネットとどう付き合わせていいかをすごく悩ませて、『その情報はどこから？ ネット時代の情報選別力』という、子どもたちをどうインターネットや様々な情報と付き合わせたらいいかを、等身大のお母さんとしてよくまとめてらっしゃいます。そういう意味では、委員のお母さん方にとって非常に話しがいい方ではないかと思います。

この 8 月もお泊りで来ていただくのと、できれば夏休みなのでお嬢さんをご同伴されてはいかがですかと言っています。

(事務局)

ありがとうございます。

これについては一般の皆さんにも知っていただく、委員の皆さんにも知見を広げていただくということでお招きすると。ジャーナリストでもあるので四万十町の活動を広く全国に広めていただきたいという狙いもあって、猪谷さんに来ていただくよう計画しています。

9 月議会までに基本計画の中間報告ができるくらいまでに作れたらと考えております。9 月に 1 回、検討委員会をやって、10 月頃に最終調整を行い、11 月には完成を目指して 12 月議会である程度説明できるような形にしていきたいと思っております。

あと、11/3 に四万十町で「米こめフェスタ」というイベントをやっています。この辺について文化的施設の触感を得たという感じでイベント参加ができれば、かなりのお客さんが町内外から来るので、広報活動に役立つのではないかとということで計画に入れています。

12 月末までに基本計画を策定したら、あとは意見公募を行って、設計業者を決めるプロポーザルを行って行って、31 年度末までには設計業者を確定して、4 月には設計業務に入る。その流れで今は考えております。以上です。

(内田委員長)

ありがとうございました。

基本計画を策定することが私たち委員会としては大事な使命であります。それと同時に、この文化的施設をみんなで作るという気運を高めていくことが必要であって、そのためには、講演会やフォーラム、イベント参加などをスケジュールの中に盛り込んで、理想的にはどんどん盛り上がってくるイメージを持っているわけです。

ただ、実際に文化的施設が住民の間で盛り上がるのは最後の最後になるでしょうね。オーテピアもそうなんですよね。建物がどーんと見えてきてから盛り上がっていくみたいなのが、実際は多いわけです。

しかし着実にこういうことをやってるんだというものと、それに伴って施設の狭義での理解だけではなくて、自分たちの暮らしなりそのものの展望を描いていくようなイメージもあるわけです。講演会や学習の場を積み重ねる計画を回していただくという計画になっています。

いかがでしょう。細かいところが未定のところもありますが、ご意見ご質問を頂いて、場合によっては、岡本さんにも検討いただくこともありますので、何か全体を見て、ご要望等ございましたら出していただけたらと思います。

(林(伸)委員)

講演会が2回続けてありますが、これは町民全体に向けての講演会でしょうか？

(内田委員長)

そうですね。そこもちろんこの場で判断していただいていると思いますが。

せっかくですし、今申しましたようにできるだけ広くPRをして、多くの方に参加していただくようにするかと思います。そのほうがいいのではないかとこちらでは考えています。

逆にもっと狭くお話をと言うのであれば、それはそれでやり方があると思いますが。渡辺さんにしても、岡本さんの説明のように、いわゆる住民としてご自身が町づくりに参加していることを言うには、多くの方に、まあ有名な方なんですけど、来ていただくということが必要になるわけで。猪谷さんについても図書館業界の中では非常に有名な方で、専門家からすれば聞きにきたいという方が県内にもいっぱいいるかもしれない。

そういう方がせっかくいらっしゃいますので、できるだけ広く参加していただければと思っていますね。

(ARG 岡本)

渡辺さんに関しては、翌日も押さえていただいている、もしできるなら十和にもお連れしたいと思っています。翌日が平日なので皆様のご都合もあろうかと思いますが。大きな講演会だと、個々に密にお話しできませんので。やはり十和の、四万十全体を見ていただきたいと思っていますので、あと一泊していただいて、十和のお母様方と少し、小さなおしゃべり会みたいなのができたらいいという話は先方にもお通ししてあって、向こうとしては一応、時間は大丈夫じゃないかと思っています。大正、十和と見ていただいて、昼までに十和で皆様とお食事を取りつつ懇談会ができるとよいかと思っています。

猪谷さんについても、丸二日間来てほしいというご予約で押さえていただいております。

(内田委員長)

ありがとうございます。

この予定表上のスケジュールはこの通りですが、それぞれ委員の方が「こんなことできるんじゃないか」という要望等言っていただければ。

(林(伸)委員)

せっかく町民の方に分かっていただくために来ていただくのであれば、ぜひフォーラムを兼ねてやっていただけると、もっと皆さんにも興味を持っていただける。これ、時間外でフォーラムをやると、せっかく高まってきた人たちも、ねえ？そこへ持って行ったほうがもっと効力がある気がするんですが、日を押さえてるんで難しい問題なんではないでしょうか？

(内田委員長)

そうですね。特に猪谷さんに 8 月にいらしていただく時に、講演会だけではちょっともったいない気はしますよね。それを住民たちがどう聞いて行くのかというフォーラムを入れることはあってもいいのかなと思います。

ただ、それと 7 月のフォーラムを一緒にするのは、私はちょっとイメージが違っていて。

もう少しこの図書館フォーラムは、確かに講演会を聞いたあとのほうが反応はいいかもしれない。人の集まりもいいかもしれないんだけど、この間、図書館を、文化的施設を作る検討会をやってきましたので、むしろ私たちが登壇して、多くの方からご意見を頂くイメージを持っております。ですので一緒にというイメージではないんですが、しかしせっかく猪谷さんがいらっしゃるので、聞きっぱなしではなくそこで何か住民とのやりとりをセットできればいいかとは思っています。

(刈谷委員)

11 月の図書館応援団イベント参加は具体的にどのような内容のものですか？

(内田委員長)

ここも別段僕たちが考えているわけではなく。

米こめフェスタのブースが色々ありますが、その一つに、図書館あるいは文化的施設に関連したブースがあってもいいわけですね。そこへ来た人たちにアンケートを取ってもいいし、チラシを作って配ってもいいし、私たちはこういうことを考えていますという PR になりますよね。

そういう意味で位置づけようかということなんですけど、これは岡本さんから前にも、柏市でしたよね？ 柏の駅前の取り組みがあったので、こういうイメージなんですけど。実際それを担っている方たちは市民なんですよ？ ずっと図書館を作りたいと思った人たちが一緒になってばーっと広がっていったってようなことがありますので、イメージはそこにあるんですけど。

で、これ「応援団」と書いていますが、別に応援団がまだあるわけでもないし、私はこの検討委員会でやってもいいくらいに思っていますが。まあもう少し広い形でですね。自由な感じですね。一市民グループとして米こめフェスタに参加して、図書館や文化的施設を PR するというイメージなんですけど。

(ARG 岡本)

そうですね。柏で実施した時は、図書館をもっと体験していただく機会を増やすことを努力しました。柏市の場合、図書館の利用者カードを持っている方が 20% とかなり低い状態でした。その状態で「これから図書館どうしよう？」と話したところで、市民の 2 割が関心持てばいいほうだということがありました。柏市はちなみに市民数 40 万人です。40 万の

20%となるとかなり少数の意見になってしまいますので。

同時に柏の図書館は非常に、あの一、なんといいですか、はっきり言うと厳しい、小さなショボい建物でしてね。それを見ても柏市民は盛り上がらないわけでした。あんな図書館をもっと増やしてどうするって思われてしまうわけで。いやそうではないですよ。今ある図書館はもっとこれだけのことができますよということを感じていただくようにしました。具体的には、本の自動貸出機を、業者に協力して出していただいたりして、実際にそれを使ってみる体験をすとか。あるいは読み聞かせをやったり、指人形の会をやったり。この辺は図書館ボランティアの方が非常に協力してくださったという感じですね。あと、近隣の高校生によるビブリオバトルもやりました。

四万十町の場合、現状の図書館・美術館は非常に厳しい状況なので、「図書館って何？」ってやっぱり虚構として出てしまうことですね。ですのでこうしてたくさんの方が集まる場に出ていただいて。あるいは美術館ならこういうことができるよと、こういうことをしたいと、それを少しでも実現してみて、それを体験していただくというのが良いかなと思っています。

これはまだ試案なんですけど、4月に来ていただく指宿市立図書館の下吹越館長は、名前で見ると分かる通りウチの下吹越の母です。はい。超身内枠で、安いギャラで来ていただくんですけど。彼女たちがですね、インターネットで資金調達して、ブックカフェといういわゆる図書館移動車を走らせています。これは市の事業ではなく NPO 自主事業としてです。できれば米こめフェスタの時に、この車が来てくれたらいいなと思っています。費用の問題もあるのでご本人とよく相談して、正直、四万十町としてそんな多額の何かを出せるわけじゃないので、先方にとって何らかのメリットがある形にして、九州から四国にかけて巡回しながら、足が出ないようにしていただいて、その流れで四万十町に来ていただければなと思っています。

これが来るとそこでカフェをやったり読み聞かせをやったり、下吹越館長の場合、鹿児島弁、薩摩言葉での読み聞かせ会とか、非常に素晴らしい技を持ってるんですけど、そういったものなんかを町民の方々に提供していただけるとよいかと思います。これが出ると自体が大きなイベントとしてうわ！ という雰囲気になると思います。この辺はぜひ皆様と相談したいと思っています。

とにかく大事なのは、役場が色々お膳立てしても、町民の方は多分白けると思うんですね。「役場のアピールね」となってしまうので。そうではなくて、もちろん役場も頑張るんですけど、私たち受託者も頑張るんですけど、町民の皆さんが、図書館・美術館が出来るとこんなことができるんだということを楽しく気持ちよく進めていくとなると、私は図書館・美術館とか特に賛成じゃないし関心ないしって方も「あれこれちょっと違うかもしれない、面白いかもしれない」と、そんなふうに思ってくださいことだと思っています。そういう雰囲気が出ていると、今までどうでもいいと思ってた方も、やっぱり笑みが零れるんですね。子どもたちがこぞって絵本に飛びついたりするのを見ると、自分には子どもがいるいないに

関係なく、これって大事な投資だよねって、地域の方々にご理解いただけるんじゃないかと思えます。

ブックカフェが来ていただければぜひ大正と十和にも。これができれば、今までも皆さんたくさんお話しいただいていますけど、大正地区、十和地区への目配りは絶対欠かせない話なので、これをそこまで持っていける形で米こめフェスタを、地域全体として楽しめるようにできればと考えています。一応本人は「4月に行く時にこの車で行こうか」くらいのつもりだったんで、今から準備すれば秋口には確実に来ていただけると思えます。

(刈谷委員)

ありがとうございます。

同じような意見なんですけど、講演会は多くの人に見てもらうために開催が窪川になると思うんですが、こちらから広く市民の声を聞くためには、イベント参加っていうのを、イベントを十和や大正でも同様に開催してもらえると。それこそ図書館に興味ないっていう住民の割合で言うと、ない地域のほうが高いと思いますので。より意見を聞けると思いますが。

(内田委員長)

ありがとうございます。

この車が四万十町内をぐるぐる回るみたいなね。一日二日にね。みたいな感じがいたしますよね。この日(米こめフェスタ開催日 11/3)は文化の日ですからね。図書っていう話が出てますが、岡本さんの話の中には、いわゆる芸術や美術のワークショップの体験の機会と。普段はやってらっしゃるわけですけど、ここでも、そういう場も一緒に持つということが当然できるだろうと思っているわけですけども。そんな機会にですね。文化の日を。できなかなってことですね。

他にいかがでしょうか？

(酒井委員)

刈谷さんの意見とも被るんですけど、11/3の米こめフェスタに合わせてブースを作るのはもちろんいいんですけど、ブースがこの日だけに設置とかではなくて、今から色んな場所に同じ、町民が作るのが一番いいにしても、ロゴとか、そういうこういうものがこうあって、統一されたものがあって、ここに意見を頂きたいとかっていう、役場なり学校なり、それなりに、行かないと行けないわけじゃなくて、町の、十和なら十和、窪川なら窪川、大正なら大正で、意識して行かなくても、目に入るところにブースがあるとすごく、ここがまた活きるのかなと。

(内田委員長)

いや、すごく大事なご意見なんですよね。

ここにブースを設けてイベントが終わったら終わりでもいいわけじゃないんですよね。そういう意味ではもっと前から地域の各地にそういうブースがあってもいいんじゃないかというようなことですよ。

(酒井委員)

ぜひちょっと、私事で申し訳ないんですけど、前回の時に、市民団体を作りたいので署名をお願いしますってノートを回したこともあったんですけど、ちょっとそのあとすごく忙しすぎて訳の分からんことになって私も。で、個別にお声がけさせていただいておりましたけども、それなりに広がり狭いものになるので、今日この場で、小さなブースをそれぞれ各所に設置してもらったら、相当、図書館に思い入れのある核となる人が、その地域それぞれに多少集まってくるんじゃないかなと思うんですよ。その人らをきっかけにして、他の方にお声がけして、また広げてもらってという、活動がしやすいんで。四万十町は広すぎて私一人じゃとても、当然ながら無理なので。なんかそういう協力を今日のうちに作ってもらえたらすごく助かるかなと思うんですけど。

(内田委員長)

ありがとうございます。もうちょっとそこをしっかりと協議しなきゃいけないかなとも思いますが。

例えば大正であれば大正の図書館がありますよね。で、基本的にあそこにブースを置いていただくとか何かそういう窓口になっていただくことだったり。

十和で行けば、振興局のあの一画というか、どこに置けばいいか。

まあ、場所の問題と、それに、できれば行政の方どなたか、ねえ、しっかりと関わっていただくというような、そういう仕組みがないと。

(酒井委員)

あの一、それこそすぐに出かけられて、そんなに構えられると負担になったりもするだろうから、もうあの、うんと、どういう箱があって、文化的施設というか、アイデア募集しますとか、本が好きであればどなたでも参加できますとか。すごく簡単なものでいいので投書箱があればとか。

(内田委員長)

今の意見はもう、そういう箱を置いていくくらいから始めようかという。

(酒井委員)

そうです、箱を高校とか、中学とか小学校にも欲しいですし。保育園も欲しいですし。そんなふうに手軽にできる箱を構えていただけたらなと。

(内田委員長)

それくらいであればできるんじゃないかと思いますのでね。委員会のほうにお願いしてみようかと思います。

どこに置かかっていうのはね。でも学校とかね。小学校にね、子どもたちに意見を聞くような場があってもいいですね。

(酒井委員)

介護施設とか診療所とか。

(内田委員長)

郵便局とかね。色々ありますよね。

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか？

それでしたら、他には細かく決まってない部分もありますけど、おおよそのスケジュールとしては、このような形でさせていただくということによろしゅうございますか？

【委員からの反対意見出ず】

(内田委員長)

はい。では、よろしく申し上げます。

それでは、具体的に中身に行ってもいいですか？

では少しここで、基本計画ですね。この間、具体的に構想を出したわけですけど、それを踏まえて計画作りということなんですが、皆さんにとってイメージが漠然としているかと思しますので、岡本さんのほうから少しイメージを紹介いただくような形で、今後私たちがどのようなことを大事に、何を協議していくかという部分に移らせていただこうかというふうに思いますが。

(ARG 岡本)

ではお手元の冊子をご覧ください。

これから計画を策定していくのと、来年度には設計者を選定していくところまで、大きな目標になっているかと思えます。私どももこういう仕事をしてきて大事だと思うポイントを皆さんに紹介していきたいと思えます。

まずこれは本当によくある話で残念なことです。施設を作る時、オープンするまでの段階を、一般的には「施設整備」といいます。オープンしてから、まあ終わりのない日々ですね、ずーっと続いていく運営の日々のことを「施設運営」といいます。で、得てしてこの二つの間で、ブツツと線が切れちゃうことがあります。

施設を整備してる段階は、役所も、コストがかかってますしすごく真剣に取り組むんです。ただ施設の運営段階になるとそこで一息ついちゃって気が抜けちゃうということが残念ながらままあります。

具体的にどういうことかという、私ども事業者の立場から見ても、特に事務局の方を中心に、この役場の人、すごく頑張ってると思います。公務員の方がここまできちんと動いてくださるというのは、我々民間の受託者からしても非常に有難い。言ってみればそこには優秀な人材が投入されている。ところが「オープンしたらもういいでしょ？」と、他に重要事業があるからって担当変わっちゃうんですね。次に施設運営の担当になった職員は、施設を整備する段階のこの熱さを知らないの、なんとなく、日々を過ごしてやっていただけになってしまう。そうすると、住民からすると、あんなに熱意をもってやってきたのに、今度の施設長、例えば図書館長の人とか全然ヤル気ないじゃないか、となって、せっかく盛り上がってきたものがカクンってなるんですね。

これは本当によくあることで、今話題の施設でも、1~2年経つと大概そうなります。おそらく、例えばオーテピアとか、ゆすはらとか。今はいいんです。今はそりゃ絶対好調なんです。実際それが3~5年続かない限り、その施設の人はどんどん減り続ける。結果的に10年20年経ってみると、「何のためにあんなコストかけて作ったんだ？」って話になります。そうならないためのお話をしておきます。

先にお話した弊社の手がけた3つの図書館を紹介したいと思います。引き続き皆さん色々な図書館を見に行かれる、公式な視察もありますけど、おそらくプライベートでどこか行ったとしても見に行かれることもあると思うんですけど、そのご参考になればと思います。

まずは、12月にオープンした沖縄県立図書館ですね。非常に巨大です。なのでサイズにおいて四万十町さんの参考になるものではないんですが、非常に特徴的なのは、那覇市市内のバスターミナルという、沖縄本島に出かける交通の一番盛んなところですね、本島の各地に向けてここから放射線上にここからバスが出ています。沖縄はモノレール以外に鉄道がありませんので、バスが非常に重要な足。特にシニアの方にとっては、ここまで出てきて、バスに乗って、お医者さんに行くと、まあ非常に重要な足になってるんですけども、観光客にとってもそれは同様で、ここ交通至便な場所に作ったんで、図書館と一緒に観光情報センターという施設も入っています。図書館も観光客向けを非常に強く意識した施設になっています。今後沖縄の観光において、図書館が沖縄にいらっしゃる方々の最初の集合場所といたしますか。ここに来て、様々な情報を得て、さらに沖縄県内の各地に出かけていくことを意識しています。

二番目、これも12月にオープンしたんですが、宮城県の名取市図書館ですね。ここは震災で被災して建物が使えなくなった図書館で、8か月かかりましたが施設がこのように建設されました。公民館とセットになってまして、2階3階がまるまる図書館、4階が公民館、1階は民間施設で学習塾と保育所が入っています。

名取が非常に良かったのは、名取市は図書館の歴史が長いんですけど、それまで、いわゆる図書館を支える市民活動はあまり行われていませんでした。ところが今回、やはり多くの方々の支援に助けられてここまで来たということで、今度は自分たちがお返しする番だという気運が盛り上がりまして、オープンする半年くらい前に「名取市図書館友の会」、通称「なとと」という会が立ち上がりまして、現在150ほどの市民の方がボランティアとしてその会に参加し、自分たちで会費を集めて、自主的な運営をしています。開館の日は非常に多くの方がいらっしゃいました。大体、平日1,000人、土日祝日2,000~3,000人の方がいらしてます。人口7万人程度の自治体ですが。この開館の日には職員が非常に忙しかかったので、館内を見学するツアーなんかに関しては全部市民の方がやってくださいました。仮設図書館を閉館するお別れイベントなんかも基本的には全部市民が主催する形で動いています。

四万十でもそういった取り組みをまさに酒井さんが今やってきたわけですけども、今までそういう歴史がなかったからやれないわけじゃなく、物事は意志があれば始まっていく部分があると私は思います。私はもともと名取市図書館の支援者として関わってききましたが、最初は正直「何で名取市の人は自分で何とかしないんだろう？」って思っていました。でも年月と共に次は自分がお返しするっていう意識が育まれてきてここまで来たっていう、市民の主体的活動って始めるには遅いってことは全く無いなと痛感します。

最後に、1月にオープンした、福島県須賀川市民交流センターです。これはかなり大きな施設ですね。全体で1万㎡ほどの床面積があります。ここは図書館と美術館が融合していく上で非常に良いかと思ってまして、図書館・美術館、FFラジオ局、コンビニエンスストア、ホールといったかなり複数の公共施設が全部の施設に入っています。非常にユニークなのは、『ゴジラ』の円谷英二監督の出身地です。今回、市民の方の強い希望がありまして、設計を一部変更して、円谷英二さんと、円谷さんの特撮文化を継承するミュージアムを設置しました。

四万十において参考になると思ってるのは、新しい文化的施設においても図書館と美術館がより立体的になっているところが非常に大事だと思っています。その意味で、図書館と美術館が融合しているケースというと日本でまともなケースが無いんですが、須賀川は現時点においては最高峰だと自負しています。どういうことかといいますと、これ、どこのフロアが図書館、どこのフロアが公民館という区別が一切ありません。全フロアが図書館であり公民館であるという考えを取っています。例えば公民館の機能としてダンススタジオがあるんですが、ダンススタジオの前に本棚があり、そこには体を動かす系のパフォーマンスアートの分野の本が全部並んでます。音楽スタジオの前には音楽の本棚が並んでいるとい

うふうに、一切区別せずに、使う利用者の側に立って、ダンススタジオの前にはダンスの本と CD があつたほうがいいという考え方をしています。

これが円谷ミュージアムですと、ミュージアムは最上階に設置されていますが、ここは単に展示物だけではなく、特撮等に関する本が全部ば一つと置かれています。ですから美術館としての鑑賞と合わせて、そこにある本を手にとって、円谷英二監督の伝記を読みながら鑑賞することができるようになっていきます。

いずれも若干遠方ではございますが、今年一年、春休みや夏休みで旅行の計画等お立てになる時に参考になればと思います。もし行ってみようということであれば、一声かけていただければ、先方が視察の対応をしてくださるように調整しますので。一人や家族で行く場合でも、我々も結構密に関わってきた自治体なので、ぜひお声がけください。

では本論に入ります。

先ほど申しましたように、施設整備と運営を連動させることが非常に重要になってきます。まずは基本計画を策定していくわけで、例えば一つご参考になるかと思うのが、私どもが昨年関わってオープンした島根県西ノ島町の離島の図書館の基本計画です。

実は私と下吹越は一昨日までこの西ノ島町にいて、そこから直接四万十町に来てるんですけど、西ノ島の場合、この基本計画を作って、今後四万十町でもあるようにビジュアルでこう分かりやすく表現していくことが望ましいと思われてくると思います。

これも一步、一年先ですね、鳥取県智頭町です。もう設計が終わって4月から工事に入りまして、何が何でも来年の4月までにオープンさせる計画になっています。今の町長が高齢で、この町長の最後のお仕事として町長が非常に尽力されているので、退任の日までに必ずオープンさせるということで進んでるんですが、こちらもこういう計画を立ててます。いずれにせよインターネットで見られるはずですよ。

こういうものを作ってかなきゃいけないんですけど、これを作っていく中で、あとでまたお示ししますが、その中身をきちんと具体的なものにしていく必要があると思っています。これからの検討の上でも参考にさせていただきたいんですが、どうしても皆様、どこに作るか、どれくらいの広さか、何階建てか、どういう建築構造か、そっちの話に行きがちなんです。そのほうが一般の方は議論しやすいというのは分かります。他方、専門的知見からすると、失礼な言い方ですが、素人がそれをいくら考えたところで意味がないんですね。それはあとで考えても全然いいんです。一番先に考えないといけないのは、今お示した三つの基本計画はかなり明白なんですけど、「何をしたい場所なのか」。これをとにかく徹底したいんです。

昨年、七夕ワークショップをやりました。その時に何をやりたい場所なのかを皆さんに明確に意識してもらったんですけど、そこが重要で、例えば女子高生の参加者が「私は新しい施設がアトリエみたいになって、そこで絵を描きたい」と言っていました。私、非常に印象的でそれはぜひ実現してあげたいと思っています。やはり何をしたい場所なのか基本計画の中でより明確になっていくことがあります。この「何をしたい」がより明確になっていって合意が取れてくれば、じゃあ具体的にこういう部屋が必要です、こういう機能を求めるな

らこういう設備が必要です、という具体的な部分、最後に言ったような寸法みたいな話ですね、広さや構造はどうあらねばならないのかが決まります。最後のこの部分は、何をしたいかが明白であればパッと決まります。それは目的を叶えるためにはこの手段だよ、という話になってくるので、大事なのはまず目的の部分を議論していかねばという部分を意識していただければと思います。

その次に、そうやって基本計画がきちんと出来てくれば、設計事業者を選定するということとなります。先ほどの事務局の説明、対外的に募集をかけるのは年明けからという形になるかと思えます。1月2月3月、3か月くらいの間に設計事業者を公募するようになります。この時大事なのが、見た目・ハコの格好よさと知名度に左右されない設計者を選ぶことです。

今まで私も何度か言及してますが、梶原町のような選択をするのも一つの判断です。ただし、必ずしもそれがいいとは限りません。見た目重視のハコは、維持管理費がかなり多くなるのが想定されます。あと、知名度、有名であるかで選んだ場合、実力とは関係なくなることが大いに想定されるのと。私も隈研吾さんと一緒に仕事したことがあります、隈さんは誠実な方です。ですけれど、ご本人は忙しくてほとんど現場には来ません。私も富山と一緒に仕事しましたが、2年間で隈さんに会ったのは1、2回です。そういう方だと、有名は有名だけど手を動かしているのは部下たちというふうになり、その方がこの町を誠実に見てくださるとは限りません。有名建築家になればなるほど、当然売れっ子ですからそうなるのと。有名人過ぎると、皆さんの意向が聞き入れてもらえないというのは正直かなりあります。

そこではなく、もちろん結果的に有名人であっても構わないんですが、大事なのは、設計者の選定は、提案の中身そのものではなく、「この人は私たちと一緒にこの町の未来に向けて歩いていってくれる」という人を選ぶことです。

実際に選定する方式はプロポーザルになります。案ではなく人を選ぶのがプロポーザルだと言われています。もちろん評価をするためにどんな建物を建てるか提案はしていただくんですが、案そのものの印象ではなく、その案をこの人はどう考えて作ったのか。そしてその案を実現するために、町民とどのような対話をしようと考えているのか。あるいはそのプロセスで町民と激しく対立することがあった時に、それをいかにして回避できる人間力を持っている人なのか。ここをしっかりと選んでく必要がある。

実際、智頭町の場合は、私どもがプロポーザルの実施を支援したんですが、図面の提案は一切禁止にして、どうやって町民と渡り合っていくんですかということを提案していただきました。結果的にはなかなか激戦、30社くらい出て、最後残った4社のどこを選んでも問題ないという感じでした。中堅事務所が選ばれて、あと一人、瀬戸内市民図書館を作った超大御所と、優秀な若手二人が落選しました。結果的にはまさに知名度に左右されないで選ぶことができました。ちなみに瀬戸内市民図書館を作られた方は元建築学会会長なので超大手で有名ですがそこで判断はしなかったということです。

もう一つ意識しておいていただきたいのは、先ほど言った維持管理費用です。一般的にこれをライフサイクルコストといいます。一般論でかなり施設の在り方で差は出ますが、大体、施設整備費の5倍かかります。どういうことかということ、5億円かけて作った場合、大体今の建築技術であれば熊本地震を超える大災害でない限りは50年間使うことができます。純粋木造建築の場合は難しいですが、ある程度コンクリートを使った建築物であれば50年間持つことができます。その50年間に対して、整備費の5倍のお金がかかるわけですね。つまり5億円の整備費に対して25億円の管理費がかかるわけです。つまり50年間かけて30億円かかります、ということになります。これはハコが際立った斬新なものであればあるほど費用はバンバンと高くなります。どういうことかということ、この庁舎は比較的まともな造りをされてますが、天井普通の照明です。多分どこでも買えます。でもこれが北欧のちょっと格好いいやつにされたら、故障したとたんに北欧から取り寄せるということになって、それだけで費用が高つくようになりますね。あるいは梁なんかもそうです。あるいはサッシとかこういうあらゆる部品資材の選び方一つによって、費用は実は大きく変わってしまいます。おそらく、ゆすはらの場合は5倍では利かないと思われます。隈さんの建築の場合、7~8倍、そのコストがかかってくるので、こういった点もね、きちんと建築家に問いながら、四万十町の実情を考えれば、5倍ですら困ると思います正直。なるべく地元の施工者の手を借りながら、地元で修繕をきちんとしていける、そういうものをきちんと設計していただく、その辺が重要になってこようかと思います。

これからの流れなんです、先ほど言った整備と運営を連続させていくために非常に大事なものは、全てをとにかく並行して行っていくことです。今すぐ設計者をあえて今年度中に設定したいのは、基本計画の内容に沿った方を提案者にきちんとしていただく。ですから実際に審査するに当たっては、どんなに格好いい内容の提案であっても、「この人本当にちゃんと基本計画読んでるの？」って人では困るんです。基本計画に書かれてることをきちんと捉える。例えばさっき、今後も議論になると思いますが、十和や大正とどういうふうに関係を作っていくかは今後の基本計画の中でより具体的な内容になっていくと思います。ということは、提案の中に「十和」「大正」が入ってない設計者はアウトなんです。どう考えてもそれちゃんと読んでないでしょう。現地に来れば分かるはずで、実際に自分で十和まで足を運んでみれば、窪川の図書館に來いって無理って普通分かるはずで、窪川に来るのはかなりのお出掛けであって、十和にも何らかの施設設備があって、それと窪川の新図書館・新美術館が上手くリンクしておくことが大事だと理解できるはずなんです。ですから計画を策定するのと合わせて同じ年度内に設計者を選ぶということを重視しています。

その次、実際に設計者が決まって2020年度ですが、基本設計・実施設計に入ります。基本設計は言葉どおりおおむね基本的な部分の設計です。基本設計が決まると概算で工事費が出せるようになります。

実施設計というのは、完全に詳細な図面が出来上がっています。つまりこの図面さえあれば設計業者がバシバシと工事ができるということになります。これを、今回であれば1か

年で終わると考えてまして、この時に、必ず今度は運営計画。つまり新しく出来るハコの形が分かってくるので、そのハコの中で日々どのようなサービスを提供していくのか。町民の皆さんはそこでどんなサービスを利用できるのか、より具体的に決めていくという計画を作っていく必要があります。この計画と設計を必ず並行してやっていくということが、施設の整備と運営を一体的に進められるポイントになろうかと思えます。

ちなみに一般的には、基本構想を作り、基本計画を作り、設計者の選定をし、基本設計をし、実施設計をし、開館するというふうに、並行で進めないんですね。これが実は公共設備事業の大きな課題で、これをとにかく全部両立させてやっていく施設作りになろうかと思えます。実はまだこの事例ほとんどなくて、西ノ島町でやったのがほぼ初めてのケースなんです。実際にその西ノ島町のやり方を見ても非常に成功だったということを感じます。同時に設計段階であったとしてもですね、このやり方であれば、運営計画を立てている中でちょっとやっばその設計直してほしいという最後の意見出しがまだ間に合う。より使いやすい施設にしていきやすくなるのが、このやり方の大きな特徴です。同時に設計者側からも、こういうふうにするので運営の工夫はこういうことができますよ、という知恵の出し方ができるのがこの辺のいい所ですね。

いずれにせよこの文化的施設を検討して運営していくためには、計画、設計、運営をとにかく一貫性、整合性、辻褄が通っているものとするのが肝要かと思えます。

ということで、基本計画をなるべく迅速に策定してスピード感を持って行って、その基本計画を受けた設計者をきちんと選ぶ。さらにそこに今日お話ありましたけど住民のシンポジウムやって、講演会等々開催しながらですね、町民の皆さんにより広く関わっていただいて、新しい図書館を作っていくのがいいかと思ってます。

ちなみにこれ前回回覧しましたが、智頭町の未来予想図。これ本当よく出来た基本計画で、智頭町の中学二年生の子どもたちが書いてくれたものですが、一人ひとりが、私は自分たちの図書館でこんなことをしたらいいねというストーリーを描き出したものです。

あとで触れますが、来年度策定する基本計画においても、こういう、この場はどんなことができる場所なのかというのが、皆さんが考える未来予想図が盛り込まれた基本計画になっていけばいいのではないかと思います。

ご説明は以上です。

(内田委員長)

ありがとうございました。

今、岡本さんから、大きくは基本計画の全体の流れ、委員会で出てるものですね、それからちょっと細かくでしたが、事業者選定の視点っていうんでしょうか、そんなようなお話を頂いたんですけども。

後半のほうですね。事業者選定の視点というのは、具体的には、今日スケジュールをお配りしてますけれども、2020年に入ってからですね。公募をして、プロポーザルをしていく

となるわけですが、その中身ですね。いつ頃から考えるのかといった時には、実はもう夏以降からそれを始めていかないといけないわけですよ。そこは私たちの検討会の中で、今岡本さんが言っていただいたような視点を盛り込んだ形ですね、公募の方法についても考えていきたいと思えます。今からするってことには、まあならないとは思いますが、事業者どういう人を選ぶかといった時の物差しを、夏以降から作り上げていって、スケジュールの中に盛り込むというか、見ていただければと思えます。

その物差しを決めるに当たっても基本計画の中身っていうのが非常に大事になってくるわけですね。今おっしゃっていただいたように構想を作るところでも、ワークショップをしながら大事にしてきた視点ですけども、何をしたい場所なのか、何ができる場所なのかっていうところですね。大事にしながら考えてきたということで、それらを踏まえて改めて基本計画をこれから考えていくということになるかと思えます。

先例として智頭町の例ですとか、あるいは今日お話しいただいた西ノ島町の例ですとかあるわけですし、それから須賀川というところも。この四万十町の場合は美術館と図書館を一体のものとして考えていくような、そういう施設をイメージしているわけですが、なかなかこれが難しいんですけど、一つのチャレンジでもありますし、本当にいい施設を私たちの手で作ればという思いもありますけど、まあ一つの例として須賀川のお話がありました。ここは私も行ってみたいと思いました。

どういう機能を施設にというのは本当に基本計画に懸かっているんだと思うんですね。それから、名取の市民グループの例や、沖縄の路線ですよ、どういう路線を描いていくかもお話しいただきましたけど、私たちが基本計画を作っていく上で、大事な視点を頂いたんじゃないかと思えます。

ここまでで何かご質問があれば。

(酒井委員)

ご説明ありがとうございます。すごく分かりやすかったですけど、実際その議会までの八月の内に業者選定の物差しと基本計画を相当練っておかないといけないというのは、この委員会で課せられていると思ったら、回数といい、こういう集まり方に相当限界があるかなって気がしてて。

それプラスもう一点は、並行してこう、基本計画と設計者選定とか、全部を並行して行っていくっていうのがすごく納得がいったんで、ぶっちゃけここには、館長的な人が決まったらね、宛てがあるのならば、そういう人が交じって入ったほうがいいんじゃないかなという気も、聞いてて、しました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

業者選定のほうはね、それこそ議会への中間報告が終わった辺りからでいいと思うので、

まだまだ先なんですけども、それにしても基本計画を進めていく上で、5月6月の学習会はやるにしてもですよ、こうやって集まって話し合う時間は少ないんじゃないかという。私もそう思ってるんですけど。結構そういうことでまた増やすってこともあるかと思います。

まあ岡本さんがいらっしゃらなくてもできる部分はあるかもしれないというね、そういう部分はちょっと共感もしたいと思いますけど。

それから館長というお話、すごく大事な話ではあるんですよ。ここは岡本さんに各地の事例で聞いたほうがいいと思うんですけども。やっぱりプロセスに関わりながら、そのあとそれをずっと維持していく連続性というものが非常に大事だと、考えれば考えるほどですね、その中心を担っていく方が加わっていることが非常に理想的ではあるわけですよ。大事な点なんですけど、多分まだそこまで行政のほうでも考えていないと思うんですけど、でも、視点としては大切ですよ。館長を誰にするのか。そしてそのプロセスにどう関わっていくのか。瀬戸内の島田館長のようなイメージだとは思いますが、はい、私はそう思うんですけど、岡本さん、何か。

(ARG 岡本)

ちょっと館長としてどうか、役場としてどうか考えるのはね。ただ一般的に言うと、設計者が決まる前くらいには本当は決まったほうがいいとは思いますが。

というのは、今まで市の新しい図書館が出来る時、まさに着任された島田さんたち経験者の話を聞いている限り、自分が決めたわけでもない設計者と仕事するのは大変だという声はやっぱり非常によく聞きます。

ただ、一方で、設計者決めに当たって、館長さんを特に決めるものでもないんで、仕事だと思えば、必ずしもそれも全てじゃないんじゃないかとは思いますが。

ただそういう意味では、よく話を聞いてくれる、きちんと対話ができる方をとにかく設計者として選ぶということが、おそらく今の時間軸の準備から言うと、大事になるかなと思います。つまり本年・来年度中に設計者を選定しようというのは、新年度から採用されている人がいなければもう事実上間に合わないということですね。もちろん期間途中、年度途中で雇用する方法がないわけではありませんが、ちょっと現実的にはそれは難しいんじゃないかなというふうに思います。

そういう意味ではとにかく、今後入ってくる、総合部分を統括するであろう方、それは新規にそこから取ってくるのか、役場の中からそういう人を探すのか色々あると思いますが、その方であろうとどうであろうととにかくきちんとコミュニケーションできる方を選ぶというのが大事かと思います。そういう意味で瀬戸内の島田館長が言いましたけど、あそこ作られた神山さんという方が超有名設計者ですけども、本当に偉ぶるところが全くなく、日々是勉強みたいな感じで、とても恐縮しながらもやりやすかったと言いました。神山さんと話していても、80いくつの大長老ですけど、「毎日新しいこと、知らないことが分かって、自分はまだまだ不勉強だと思った」って。衝撃でした。本当に素晴らしい実績を残されて

いる方はその人間性も高くて本当にすごいなあと思いましたけど、なるべく年齢とか知名度に関わらず、その辺の人間力高い人をきちんと選んで、皆さんの代表たる職員さんなり館長さんなりと上手くやっていける人をマッチさせることが大事かなと思います。

(内田委員長)

ありがとうございました。

前回のお話ですけれど、検討委員会を、9月の終わりまでに4回開くんですけれども、どちらかって言うとあれですね、フォーラムも検討会を含むとか、視察というの？ まあとにかくもう1回くらいないと足りないかなって感じはいたしますね。

8月に猪谷さんにいらしていただきますけれども、そこから9月頭くらいまでにやっぱり1回開く必要があるのか。あるいは、5月、渡辺さんがお見えになって、6月まであるんですけどこの辺でもう1回開くかとか。

ちょっと、そういう意味ではね、足りない。はい。

(酒井委員)

結果的にそういうふうに集まる機会を増やしてくれるのは有難いですし、最初のほうに言った設置箱の意見の集約もしたいし、あとここで委員で集まっている方々でもっとこうたくさん素晴らしいアイデア持っていたり、思いがある方もたくさんいらっしゃるけど、こう図々しく発言ができない人がいるわけで、レポートじゃないけど、そういった形で委員の間から個別に、この日にみんなの前で発表するので集計させていただきますって形でもいいと思います。集まるとちょっと場所とか時間とか人とかが制約されるので。そういうのはこう、適度適度に都度都度入っていったら割と精度も上がるのかなという、かもしれないです。

(内田委員長)

はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

(林(伸)委員)

今さっき話されたと思うんですけど、委員会の回数もそうなんですけど、この時期にこんなことを決めてほしいというのがあると思うんですけど、その内の5回とか6回の会になると思うんですけど、この年度のスケジュールには検討委員会がこの時にありますってだけで内容がちょっと分からなくてですね。この時にこのものをやりたいとか、これまでにこんなものをやりたいっていうのがあれば、それに向けて自分らも勉強できる場所は勉強させてもらったかなと思うんですけども。よければそれをちょっと頂きたいなと思ひまして。

(内田委員長)

ありがとうございます。

例えば次回の検討委員会が1回目ですよ。1回目2回目の辺りは、基本計画の中身をこうぐっと詰めていくような話になるかというふうに思うんですよ。あるいはまあ3回くらいまではこういうふうにならざるをえないなというふうに思います。

(林(伸)委員)

いや、基本計画もたくさんあって、決めることがあると思うんです。その中で絞られてこれだけはやりたいていというのがあるんだったらそれが聞きたいという意味です。

(内田委員長)

はい、そうですね。分かりました。

日程的には①～③とありますけど、この辺りは基本計画作りを丹念にやっていくという作業になるかとは思いますが、で、実は全体どんなイメージを考えるかっていうのは、岡本さんが作ってくださってるんです。はい。それで出させていただこうとは思ってるんですけども。

要は、これに従うようにしてはいけないと岡本さんも思っているし、ただでもまだ全体どういうイメージか分からないというようなところで、ちょっと出してみようかというところだったんですが。

(ARG 岡本)

まだちょっと、超素案です。ただこんな感じが四万十町らしさを考えた時にいいかなと思っています。

第一章としては基本的な方針を、今の方向性も含めてきちんと確認する。まさにこの一年間議論してきたことを圧縮して整理するのが第一章ですね。ですから特に他の町民の方が読んだ時に、「ああ、こういう施設なんだ」ということが分かるようなものにして。

第二章はまさに先ほど話したことで、皆さんが「何をしたいか」。どういう場であるかを一番明確に伝えるのは、「20XX年。子どもがここにいてこういうことができた。こういう一日を過ごせた」とかですね。今まで皆さんにワークショップでやっていただきましたが、それをより具体的に書き込んでいくようなものになりたいと思っています。そうするのがいいんじゃないかと思っています。

あまりそういう基本計画を作ってる自治体はないんですけど、でも設計者の方からすると重要なのはここなんです。どういうふうに皆さんが使いたいかと思っている物語を渡していただければ、設計者は「それであればこういう空間」と考えやすくなってきます。

自治体によっては、ここは何㎡でここは何を置くとか決めちゃうんですけど、それは正直、設計者の制約でしかなくて、あんまり面白いものになりません。大概そういうやつって、よっぽど、瀬戸内市はそこまでやっていますが、それは島田さんという超プロがいたからできた話です。あるいはオーテピアも同様です。オーテピアもかなりプロの職員がいたので、おそ

らく日本中探しても自治体でそこまで作れるのはその二つだけです。それ以外はまず難しいので、そこは優秀な設計者の力を借りればいいので。

今、子どもとか、小中学生・高校生とかに分けています。あと窪川・大正・十和と地域ごとにバランスにも配慮して、それぞれの方の利用のストーリーというのをここにきちんと書き込んでおきたいと思っています。

これがあれば、設計者には「まずここをきちんと読んでください」「これをきちんと読んだ上で提案してくださいね」というふうにできるのではないかと思います。

第三章は少し具体的ですね。どういうサービス目標を掲げて、どういう管理運営の基本方針を取るか。ただしここは全てを決めていってしまうわけではありません。2020年に策定する管理運営計画で決めることが、ある程度ここに上がってくればよいかと思っています。ですから例えば、開館と閉館の時間、開館日・閉館日等を検討はするけれど別に決定はしなくていい段階です。実際に何曜日に休むかは条例において決めるものになるので、本当に最終段階で決めればよいですし、そこは充分調整可能と思っています。あとは、資料の貸出とか、あと美術館要素もあるわけで、作品の展示、あるいは作品そのものを貸し出すということはどうするかという基本方針をここで考えていくという形になります。そして、ここで重要なのは町民の皆さんとの協力で、どういうふうに施設の運営をしていくかです。

一番最後はこれテクニカルな話ですね。さっき言った、どこにするかというのと、以上を踏まえると大体、規模感これくらい、少なくとも何㎡以内っていうところまで決めて、地域全体にどのように繋がっていくのかといったところ。あと施設の必要な機能や在り方と言ったところを少し具体的に。建築で言う与えられた条件を「与条件」といいますが、建築家、設計者サイドに示す条件をここで詰めていきます。

最後に、施設の整備のスケジュールというのをここでまとめていって、という形ですね。

あんまり分厚くても誰も読まなくなるので、厚くても50ページ以内、できれば40ページ以内がいいところかなと思います。で、圧縮した概要版をA4スペース1枚くらいでまとめておくと。なるべくビジュアルを多用して、イメージで分かるように。目標としてはやはり中学生くらいのお子さんたちが、これが町の未来を作っていく新しい施設なんだと分かってもらえるという感じを目標にする。智頭町の中学生たちが作ってくれたああいう冊子みたいなのが理想かなと思います。

(内田委員長)

ありがとうございました。

具体的にこのようなイメージは持っていてくださっているというところですよ。

先ほど箱を置こうかという酒井さんのお話もありましたけど、例えば第二章のところですよ。利用者の体験ストーリーっていうので、20XX年、あなたはどのように使っていますか、というイメージをたくさん集めるっていう目的で、福祉施設に置こうとか保育園に置こうとか、小学校に置こうとか。そういうふうになっていけば。これは非常に、ご提案とし

ていいですね。そんなふうな意味で置く意味もあるだろうと思って伺っておりました。

イメージはこういうようなことですが、今内容を少し示していただきましたけども、これについてもご意見があれば。

(酒井委員)

内容じゃなくて、おっしゃってた参加する時の心構えの手続きというか。できたら次の何日に、この日に決まりましたっていう用紙を郵送してくれる時に、次の議題なんかと一緒に入れていただけると取り組みやすいかなと。

(内田委員長)

ありがとうございます。

いかがでしょう。例えばこの中身に関してでもいいんです。この第二章の中身を細かく考えることが目的ではないですけど、岡本さんのほうで今回とりあえずこういう分け方をしてくださったんですね。子ども、子育て世代、小中高、大学、高齢者。窪川、大正、十和、あと訪れる人と、こういう書き方ですけども。もうちょっとあってもいいよなっていうふうには思いますよね。

例えば皆さん色々な課題を持ってらっしゃるわけですよね。働くってことに関してだっ、あるいは、ここでは単なる高齢者って書いていますけども、この部分、もっともつきめ細かく考えられるんじゃないかとかいうような意見や、持ってらっしゃると思うんですよ。まずはそんなようなところからですよ。やっぱりやっていくような必要があるだろうというふうにも思いますし。

(ARG 岡本)

そういう意味では、初回は、もうちょっとこれブラッシュアップしておくので、皆さんにこれ、どういう構成にして、ここでは何を語りたいかっていうことを皆さんで意見出しするのがいいのかなと思います。

なるべく来年度、私どものほうで伺ったお話をガツガツとにかく文章にひたすらどんどんしていくので、前回伺った皆さんのお話の大体の骨子を、このような形ですよなというふうにまた提示させていただいて進めていくという形がよいかなと思います。

あと先ほど酒井さんが言われた件で言うと、限られた時間の中でザクザクとやるのに一番いいのは、大変ではあるんですけど、こういうふうに投影しながらその場で皆さんの議論したのを片っ端から打ち込んでいくことですね。

以前、別府市で行った美術館構想策定の時は、そうやってリアルタイムでひたすら書きまくりました。限られた時間でしたけど、結構、それがスピードを速めた部分がありますね。何とんでもこうやって皆さんに見ていただいているので、「この表現で納得です」っていうふうに皆さんの合意が取りやすいっていうのが、スピード化を図る上で結構よかったか

など思っています。その辺はちょっと運営の仕方を、私どもで工夫をご提案することで。回数増えたら増えたで、なかなかそれ主婦の皆さんには大変厳しいものになるかと思いたすので、1回の密度をとにかく高くして、ちょっと2時間、お疲れにはなると思いたすけど、やり切った感があるような形にしていけるとよいのかなと思いたす。

(刈谷委員)

前回の感想ですけど、全て下吹越さんが打ち込んでくださって、すごく有難かったです。

(友永委員)

ちょっと今の現状が分からないんですけども、高齢施設っていうのがいくつか町内にもあるんですけど、そういう所と図書館との、図書の貸出が現状行われているのはあるんでしょうか？

(図書館員)

図書館としてはその施設の職員さんが来て、団体貸出して形でやっている所があります。ですので全部の施設ではないんですけど。

(内田委員長)

団体貸出をされているってことは、今も少し繋がりはあるわけですから、そういうところに少し、むしろ積極的にね、お声がけをしながら、聞いていくっていうような。ていうのでありますよね？

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

最初の第一章はですね、前の基本構想のある種の大事な点をこうピックアップしていただいたわけですね。ビジョンとコンセプトとプランのところですけども。例えば具体的なプランのところ、「図書館と美術館を核とする文化機能の融合」っていうね、この部分が実は大変大事なことになってきているというのがさっきの話ですね。そういう意味では先ほど高齢者への本の貸出っていうだけじゃなくて、高齢者の方がどんな自己表現や創作活動とか、そういう思いなりがですね、あるのかってことも合わせて聞いてみようとかですね、いうふうになるかと思いたすし、まさにその、例えば、資料の貸出って項に出てますけども、資料そのものへの理解っていうのもですね、今日もちょっと岡本さんと話してたんですが、図書館資料とは限らないわけですね。今までは美術館の領域で言われてきているような資料についてもですね、場合によっては貸し出すとか、あるいは資料って言った時の捉えがこれまでと違うようなことなどもですね、反映できたら、ずいぶん違ったものになっていくんじゃないかなっていうふうに思いたす、思ったりするわけですね。そんなような話も昨日してたんですが。

どうでしょうかね。美術とか図書に限らず自分を表現すると。私、最初に今日「創る」というキーワードを出させていただいたわけですけども、プロセスを作るのも大事だし、でも出来るものっていうのは町民の皆さんがなんか自分を作る、そしてまちを作っていくという、そういう活動を援助する施設なんだっていうようなところ、考えた時に、なんか美術のような視点から何かあれば。

(酒井委員)

個人的にちょっと平田オリザっていう方の本を読んで、あの方の本に、本を貸し出すだけじゃなくて、アーティストを滞在させて、アーティストと町民の関係交流を増やすとか、別の刺激をものすごく生んでるんですよね。それがすごく魅力的に、私なんかは感じて、子どもたちが外に出て行かなくても、町内で世界的なアーティストと出会えるとか、そういうったこう、ここでいいんだっていうことを取り組んでいただけたら、資料の活き方も全く変わってきて、その方が勧めてくれる資料となれば全く違うし、岡本さんが言った、高校生が私のアトリエみたいに使いたいっていう場合も、彼女の尊敬するアーティストが来てくれたら全く違ったものになると思うので、そういう自由な取り組みっていうのが入る余地があるような図書館が、美術館との融合をすごくマッチしてるのかなと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

そういうことを書いていきたいですよね、基本計画。

(酒井委員)

え、今の時間帯ってその議論だったんですか。

(内田委員長)

いえ、次の議論に繋げるという意味でもね、まだアウトラインというか、せつかく充分とおっしゃってくれてますけど、素案を出していただきましたので。

(林(一)委員)

構いませんか。

意見にはなりません、非常に重要な検討委員会の委員ということで、責任も感じながら今まで来ましたがだいぶ経過しております。それで、今日のスケジュールにもありますように、基本構想から基本計画に向けてそう遠くない時期に来るということですが、非常にこう、世の中の構造が変わってきておりますので、基本的に方向性としては、図書館・美術館が中心になると思いますが、郷土資料館ですね、歴史文化、特に四万十町がそういった、古代縄文の時代からのアレがありますので、そういったものも含めた形で、保存しないといけない

と、私は常に思っておりますが、そのためには、細かく行きますと、古代から伝わってきているものがありますが、収蔵庫がないということでかなりもう大事な物が町外へ流出しまして、いよいよ残念だということもありまして、そういったものも当然、空調なんかも、古文書なんかは空調が要りますので、空調を活かしたものが要するというふうに思っておりますが、そういう文化歴史ですね、そういうことも含めて町民がどういうことを望んでるか、そういう方向性がどうなっていくかなと思ひながら、今まで来たわけですが、やっぱり町民の民意というのかなり生かさないといけませんけど何を望んでいるかがほとんど分かりませんね。

そういった面も含めて、四万十の町として合併して（昭和の合併から）50年過ぎましたので、そういった四万十の中流域として、街づくりと連動した施設でなくてはいかんというふうに思ひまして、そうすると家、建築物の特徴というものが、通常の鉄筋にするのか、あるいは木造にするのかということも含めないといけませんと思ひますが、合わせて、この検討委員会自体がずっとこう進んできておりますが、やはり教育委員会の範疇に入りますので、教育委員会、そして社会教育委員会というものがあつて、専門的なこの分野で頑張ってもらわないといけませんと思ひます。

それと合わせて、議会が動いてもらわないといけませんと思ひますし、専門分野の常任委員会というのがありますので、教育関係ですね、そういったこと、それから各種団体もあつて、そういったことが全部連動して、町の民意として、どういう形で人づくりを実現していくかということがあつて、特に議会につきましては、ぼつぼつ議会の人たちと会いまして、このことが議題になってありつつありますので、やはり構想を含めて予算化することが大事ですし、20億も30億もかかるんじゃないかと思ひますが、そうすると議会の承認が特に必要ですので、そういった形をずっと経過を見ながら、こう、この検討委員会も含めてですね、並行して意見調整もして、構想も立てるということになるんじゃないかと思ひます。これがどうしたらいいかということまではまだ行きませんが、そういったことを含めてですね、その時の分野で検討する、それを調整していくかということで、今年については特にそういった面が非常に大事な時期に来ているということしか意見は言えませんが、どういうふうな方向でまとめていくかが非常に大事な時期に来ているということだけは感じながら、皆さんの意見を聞かせていただいております。

意見にはなりません、そういった今後の、四万十町が高齢化時代に、四万十町だけではありませんが、社会的に入っておりますし、そういった形で、人口動態も20～30年すると1万人を割るというような形が出ておりますので、そういった施設整備についてもですね、議会で、人口に合わせた、いわゆる箱ものの、いわゆる建物の、考えるべきじゃないかという意見もぼつぼつ、私たち同士の間では、ぼつぼつ聞きながらこの会に出ているわけですので、非常に判断、まとまりが難しいながら、がんばっていかねばということしか言えませんが、やはり、まとまりのない話をしてすみません。

(内田委員長)

ありがとうございました。

郷土資料とおっしゃってましたが、資料という捉えをどうするかも非常に大事な要素になってきますので、まさに、ここに言った時での資料をどう捉えるかという点は、非常に大事なものなんですよ、郷土資料というものはですね、それも盛り込みながらですね、検討していくものになるんだろうなと思います。

収蔵庫や書庫やそういう部分についても、どういうふうに考えるのかというのは今後も話題になっていくかと思います。いわゆる細かい点が今の話なんですが、民意っていう点、議会っていう点では、今日お示ししましたスケジュールですよ。できるだけこう、講演会やイベントを利用しながらそれを盛り上げていこうっていうことですよ。

ですのでちょっと変な言い方ですけど、渡辺さんの講演会にぜひ議員さんも役場の職員の人も来てほしいわけですよ。それがこの委員会の思いなわけですよ。あるいは猪谷さんの話もぜひこのメンバーに聞いてほしいし、米こめフェスタで、応援団でイベントに参加するっていうのが、むしろそういう方たちへの絶好のチャンスでもあるわけですよという意味で、まさにそれを作りながらこれを進めていくっていうのが、今日の主旨ですよ。

そういうふうなことを続けていけば、「あんなもの要らないや」って言ってた人たちも、「要るんじゃない？」っていうふうに言ってくれるようになるんじゃないかっていうようなことをさっきね、岡本さんもおっしゃってましたけど、まあそういう気運をぜひ作っていききたいというふうに思うわけですね。分かりました。

それから人口動態の話も、岡本さんの言葉を借りれば、ライフサイクルコストっておっしゃってましたよね。どれぐらいの費用がかかるのかっていうような。当然大事な点でありますし、それに見合った形で業者の選定等、そういった話に当然なるんですよ。私たちがそういうことを全てやれるわけじゃないんですけど、いつもそういう視点で基本計画やこのスケジュールの中身を作っていくという点では、林一将さんがおっしゃったようなことになると思うんで、そういうご意見を頂いたなと思います。

何かありますか？

(事務局)

林さんのおっしゃったことで、回答にもならないとも思いますが、教育委員会としての意見を申し上げます。

議会に対してって部分なんですけど、これについては基本計画を策定して、それについては教育民生常任委員会っていうのが所管の常任委員会でございます。これについて、新しい教育民生常任委員会のメンバーの方に、こういう考え方で基本計画を作って、こういうスケジュールで行きたいというようなことは、3月の議会前に説明をさせていただきました。

それとですね、中心市街地活性化構想というのを現在、企画課まちづくりのほうで中心にして、パブリックコメントを取っているところです。

そういう中で、歴史文化ゾーンということで、そこに文化的施設をっていうところで、そこが有力候補地ですと、町長としてはお示しているところです。それについても今後、パブリックコメントの結果を見て、議会なり、皆さん、中心市街地活性化計画の中でお示していくということになると思います。

それと並行して現在の基本計画についてはやっていくということになっています。

ちょっと説明になりにくかったんですけど、今の形としてはそういう形です。

それともう一つ。昨日の予算審議の中でもですね、そういう質問もございまして、教育長のほうが今後やっていくという方向性を示しております。以上です。

(内田委員長)

ありがとうございます。

行政のほうの動きについてもですね、ご紹介を頂きました。ありがとうございます。

他にいかがですか？

次回に向けても、基本計画について議論していきますので、思ったことを出していただいたほうがいいかなと思うんですが。

(酒井委員)

この文化的施設検討委員会だけのことでなくなるので、この機会に、役場の方をお願いしたいようなことになるんですけど、先ほど HP に載ってて、意見公募は色んな案件についてよく出してもらってますけど、きっと一件も来ないってことばかりですよ？

それっていうのはやっぱり、町民の方はやり方が分からないとか、敷居がちょっと高いと思うんですよ。これは今ちょっとあの、パブリックコメントをどう出したらいいのかっていうワークショップをやってるところもありまして、ぜひこういったことを町民の方に促してもらってたりってことをしてもらったら、意見はたくさん集まると思うんです。

(内田委員長)

ありがとうございます。

そういう意味では、もっともときめ細かく声を集めようって意味で、最初に酒井さんから提案があった、箱でもいいからとにかく色んな施設や場所に置いていこうよということですよ。それをぜひやってみたいという感じがします。

(事務局)

宇和島市の（パブリックコメントについての）取り組みは初めて見せていただきましたので、詳しくないんですけど、パブリックコメントのやり方という点についてもですね、色んな意見がありました。そういうことも踏まえて今後、企画課のほうとも、どういう形でこう、せつかく意見公募をするので、多くの意見が集まるような形っていうのをですね、教育委員

会だけではなくて、全庁的な課題でありますので、そういうところについても協議をしていきたいと考えております。

(ARG 岡本)

その意味でまさに柏市でワークショップをやったんですね。市民の皆さんに集まっていただいて、パブコメってそもそも何？ っていうレベルから、こういうプロセスですよって話からやりました。で、実際に皆さんで、下書きですかね、パブコメを始める前にやりました。始まる前に、こういうものが出るのでこういうふうに意見を書くといいですよと。

これ実際、私もこういう仕事柄、自治体のパブコメの回答をどうやって作るか結構下書きを作る仕事をしてるんですけども、ツボがあるんです、ある程度。例えば柏市であればこの柏市図書館の在り方っていう資料を前提にしてるので、そこに書かれてないこと書かれても、行政側は「参考にさせていただきます」以外の回答のしようがなくなるんですね。そこで書かれている内容をいくら外れたことを書かれても、はっきり言えば意味がないです。だからそういうことをきちんと市民の方に伝えることをやるっていうのは有効で。柏は大体普段のパブコメで3人しか書いて来ないんですが、今回は20人くらい書いてきました。かなり集まりました。

ただ難しいのは、パブコメの説明会をやれば集まるかといえばそうとも言えず、この2〜3年くらい前に策定するワークショップのお手伝いをやった浜松市図書館ビジョン、これはパブコメをやったところ、浜松市としては歴史的な数が集まって、157件。めちゃくちゃ来ました。

だからこれ何がポイントなのかちょっと分からないんですけどね。これおそらく、その前にやったワークショップをかなり市民の皆さんに見えるようにしたのが大きかったんだろうと思います。中に出てるものもこう、今まで出しているものから斬新に変えました。ストーリーを作り、行政の言葉でずらずら書くんじゃなくて、市民の皆さんが、浜松市の図書館新しくするんじゃないんですね、既存の図書館をどうしていくかをたくさん書いてもらって。で、これを実現するために図書館はこうしますよ、っていう約束を書くっていうスタイルにしたのが功を奏した理由ではないかと思います。ただこういうやり方が、これから来年度から検討していく中で町民の皆さんへの伝わり具合を見て、判断していったほうがいいかなと思ってます。

ただまだ役場とは協議の中でアイデアベースで考えてるのは、米こめフェスタの時に、もうある程度決まってきましたから、今度パブコメやりますよってことをきちんと広くお伝えして、米こめフェスタの中でちょっとそういう、一瞬ちょっとみんなで勉強しませんかって。そういうセッションの時間が取れると効果的かなと思います。そうすると、関心なかったんだけど私も何かそこにアイデア出したい、意見出したいっていう方が増えてくるのかなと思ってます。米こめフェスタでみんなで手作りのイベントをやるのがすごく重要なところですよ。

(内田委員長)

ありがとうございます。

米こめフェスタもそうですけれど、渡辺さんや猪谷さんがいらっしゃる講演会の都度都度にね、そういうもの、色んな意見を聞いてみるってことは当然していくわけですよ。それで終わっちゃうって場では当然ないわけなので。そういうようなところで広く意見を集めるっていうことをしていこうってことですけど。

他にいかがですか？

(林(伸)委員)

パブコメの件なんですけど、それこそ 11/3 に米こめフェスタがあって、意見を聞いてまとめて反映するっていうのは役場がなかなかしんどいんじゃないかなという時期なんですけど、これは早くしないで構わないんですか？ 場合によっては投書箱を置いて意見を聞くって話もあったけど、ちょっと早めに聞いて、出るか出ないかはまだ分からないと思いますけど、結構、急に来て急に換えられるものではないと僕も思ってたんですけど、これひょっと、この時期でいいのかっていう検討はしていただけると有難いなと思うのとですね。

あと、せっかくですので、これから僕らも色々検討させていただくに当たって、たくさんお話させていただいたと思うんですけど、岡本さんは色んな図書館を見ていて、色んな情報を持たれてると思うので、今日見て教えていただいたような名取市の図書館であったりとか、そういうところのいいところ悪いところをもうちょっと聞き取りもさせてもらえて、次の検討課題にもさせていただけたらいいなと思ひまして。

こういう変わった仕事をさせていただいてる都合とかあって、自分のほうが、図書館関係とか公共物件関係とかの案件に当たることが仕事柄多くて、色々やらせてもらってるんですけど、色んなところであとから出てくるのはすごい分かると思います。岡本さんが言ったようにあとからお金がかかるようなのはいけないっていうのはすごく分かります。そういうことを全部は無くせないと思っても、いいところ悪いところ、資料の指摘を頂きたいというのと、使う方側の意見、抗議じゃないけど、こういうのが欲しい・欲しくないとかでも、検討委員会で、できるのであれば、盛り込んでいただけたらなと。

この時点で言うておかないとなかなかね。途中でっていうと盛り込みにくいと思うんで、ちょっと、そんなん、聞けないかなって思ってます。

(内田委員長)

分かりました。後半のほうはちょっと岡本さんにコメント頂いて。

前半は、要はパブリックコメントって出来たものをぼーんて見せて聞いているんですよ。そのプロセスに全然関わってない人からすればね、ある種どうでもいいし、自分は言ったから構わないよなって考え方になるパターンですよ。最後だけポンと出すっていうのはね。

そういう意味では、作りながら色々意見を聞いていくってことが大事になるわけですね。ですので、米こめから、ねえ、最終的なものをやりますよっていう PR はするけれども、その前の、そこまでに持っていくところがむしろ、委員会としては大事なんだってところを、確認したらいいと思うんですよ。どうです？

(ARG 岡本)

そこはちょっと四万十町の役場としてどうかというところがあるので、事例としてのご紹介であります。先ほどから出てる柏市さん、なかなか担当の方々はかなり割り切った方々だったので実現したんですけど。

柏市の図書館の在り方というのを策定したわけですが、図書館を建てるというのではなく、既存の図書館をこれからどうしていくかっていうのを決めてったわけですが、その時の議論を全部公開しました。最終案を以てパブコメをかけました。ただ、そのプロセスで決めたことは後で変わりえますよということはきちんと市民に理解していただいているという前提で、プロセスは全部出しました。

柏市の方の図書館に対する利用度合いや認知度が極めて低いので、とにかく先行して情報を出しまくることで関心を持ってくださる方を少しでも増やそうと思ったからですね。ただ、やってみて思ったのは、我々も柏市もかなりドキドキはしてました。まだ確定じゃないものを見て、あーだこーだ言われたら困る。あと議員さんですね。確定しないものを以て議会で何か言われても困る。行政側の考えとしては非常によく分かるんですけど、そういうことはなかったです。まさにそういう議論が一部の陰で行われていると思われなかったのがよかったなと思います。これはちょっと役場でも協議が必要かと思いますが、法的手続きだけなら別に途中で公開しちゃいけないなんてことはないですね。ただやっぱり取り扱いが難しいなって気はします。

正直、場所の話とかね。町内の地価に影響を与える可能性がありますからね。特定のビジネスに影響することもあり得るので。公共事業なので、どれくらい情報をオープンにするのかがいいかは慎重に取り扱わないと望まれない結果になってしまうという難しいところがありますね。ただ、こういう方法もありうるということをご紹介しますと思います。

(内田委員長)

ありがとうございました。

ここで休憩を 10 分ほど入れたいと思います。

休憩後は次回に向けての基本計画に、具体的に何を入れ込みたいかを話し合っ、閉会にしたいと思います。

【10 分間休憩】

(内田委員長)

では、お手元に配られました基本計画案の草案をご覧ください。

一章は基本構想の中身になります。

二章は利用者が施設をどう使いたいのか、何をしたい場所なのかをストーリー的に考えていくというお話ですね。それから三章が目標で、四章は建設計画に向けてのスケジュールです。

先ほど酒井さんにご提案いただいた投書箱など、どのように使いたいかのイメージをもっともっと集めたいわけですよ。ただ単にそこに行くだけじゃなく、合わせて募集をね、応援団を募集してますよってことですよ。

その時に、ここに子ども、子育て、小学校と続きますが、もう少し個性に応じるというかね、一人一人色んな課題を抱えていて、その課題に応えるというような視点で行くと、もう少し何かあるんじゃないかと思います。

それから、「アウトリーチ」という言葉が出て参りますが、ずっと会議で大事にしてきた十和や大正というところですね。図書館は基本的にネットワークでもあり、要望や資料を届けるということ考えた時には、当然その、施設の中に籠ってるというのではなくて、広くより全体をカバーするという「アウトリーチ」という言葉に注目してですね、サービス目標を設定すべきじゃないかっていうのは、岡本さんのほうでも考えていらしてくれてるんですけども。

その上の「以後」、施設間の連携っていう、福祉施設ですとか病院とかあるかと思いますが、そういうところへもっともっと連携を広げる形で。そこに小中学校・高校と入ってくるわけですけど、そんなイメージがあるかと思います。

それから資料の貸出・返却となっていますが、あるいは作品の展示・閲覧となっていますが、ここの機会ももっともっと広くですね、考えられていいわけですよ。団体じゃなきゃ貸さないとかそんなことなく、一人一人が、自分が表現したい、何かしたいといった時に、それに応じられるような、幅広いイメージがあっていいわけですね。

それで図書館と美術館が「融合する」という言葉がずっと出てくるわけですけど、これも一つの大事なキーワードなんですけど、ここもどう考えるかっていうのがありますよね。機能を分化しないとかですね、というような、塚田なんかそうなんですかね？ 全体が博物館であり図書館でもあるという考えで進めていく案件ですよ。

あと「協同」というやり方も、単に後援という形じゃなく、応援団とか、図書館を作るところで、一緒に市民の応援団が増えていくみたいなですね、スケジュール感も多分必要で、スケジュールのところに案外そういうところも入っているのかもしれないというね。色々ね、パッと見て考えるところがあるわけですけど。

いかがでしょう。何かご意見やご感想は。

(酒井委員)

あの、あまり分厚くなっても見てもらえないから意味がないという考えですけど、美術館が融合したほうがいい理由とか、漠然とイメージとしてはいいんだろうけど、それによって一体どんなすごいメリットがあるのかとか、そういったのが明確に示されていれば、もっと、取り組み方とか変わってくるんだろうなあって思ってた。

先ほどお話しさせてもらった本の平田さんにも、美術の重要性を、ものすごい重要性をコミュニティ形成において不可欠であるとか、割合説明してもらわないと分からない分野のメリットや、いま四万十町の子どもたちとか、町おこしに必要な部分とか、一見したら見えてこないんで、そこをちょっとすごく分かりやすく説明してもらったらいいのかなって思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

大事な点ですね。どこに書くかってことはもちろんありますけど。実は常にそのことを意識しないと全体が書けないんですよ。

(山本委員)

それとね、やっぱり歴史を大事にする町であるのは間違いないわけですので。ぜひ図書館・美術館だけを取り上げるんじゃなしに、歴史を大事にする町という施設を位置付けてほしいと思います。

(内田委員長)

先ほど郷土資料についておっしゃってましたからね。

ただ、「図書館と美術館を」という表現になっているのがいいかという問題にもなりますし、文化施設、文化機能をどう捉えるかというところで。

(山本委員)

ただ一般には分かりません。

(内田委員長)

そうですね。一般には見えにくいので。

(ARG 岡本)

そういう意味じゃ「名称」の項目が必要かもしれません。名前を決定するまではいくらでもいいんですけど、さすがに「文化的施設」という公的名称じゃまずいと思いますし、かといって「図書・美術館」もちょっと、あまり能がないようで。

あと、愛称をつけるかっていうのがとても大事で。西ノ島町コミュニティ図書館は、公募して、最後は島民の投票で「いかーや」という名前を付けています。「いかーや」はあの辺の方言として「××へ行く」という意味で、「いかーやへいかーや（行こうよ）」という使い方をされることまで想定してつけました。この前、西ノ島へ行く定期船で後ろにいた人が、電話で「いかーやでさあ」と言ったのを聞いて結構感動したんですけど。それが一番いいのかなと思います。公的施設名はそれとして、皆さんが親しみを持って呼べる名前をどういう方向性で付けていくか。

名前をどうするかっていうのは、この施設をどう捉えるかという、非常に重要なポイントかなと思います。一応図書館でいうと「図書情報館」とか「情報創造館」とか「文化情報センター」とかパターンはありますが、ぶっちゃけどれも分かりやすくはないですね。なんか変わった名前程度でしかないので、名は体を表す分かりやすさの部分と、親しみやすさとか、その場所のコンセプトが聞いただけで分かるってものを編み出していくのが大事かなと思います。

(刈谷委員)

西ノ島町の図書館でいうと、「いかーや」の前に「西ノ島町コミュニティ図書館」っていうのがありますよね。ここの名称によって内容が定まってくるのかなって思って、「コミュニティ」が入ってるのがミソであり、「図書館」って言葉になっているので、この四万十町においても、やっぱり「文化的施設」だと何をするとこなのか分からない。で、中心になるものが、「図書館・美術館を核とする」ってここには書かれていますけど、そこに「歴史」を含めるかってところも含めて、名称と、その前にある、誰が見てもここがどういう施設か分かる、そこもすごく大事かなと思いました。

(酒井委員)

すいません。これは私が個人的に探っていることでどうしても取り入れてほしいことじゃないんですけど、結局立ち返った時に、「なぜ図書館が必要なのか？」とか考えて、もし図書館がなかったらとか、絶対に必要なんだと思っているからこそ作るんではあるけど、色々あって皆さん心が折れることもあるかもしれないし、運営が上手くいかない時もあるかもしれないけど、「これをなぜ作らなければいけなかったのか」をしっかりと、根源的なものが。

今ここで示すのなら一冊の本が書けるくらいになってしまうんですが、今さら厳しいけど、そういうのは考えたいなと思います。芸術も歴史もそうだし。

(内田委員長)

その学習は、中西先生もその必要性を強調してらしたわけですよ。人間の命とか生きるとかに不可欠なんだと根源的な問いを發してらしたわけですよ。

むしろ表面的なものが多い今、その地域に暮らし続ける、生活ってことなんですけどね。ですから当然そこに住み続けた人の歴史があるわけですよ。

(酒井委員)

住み続けてきた人の歴史もそうだし、先ほどおっしゃってた猪谷さんの本も、ネットの選別力なんかも、誤ったネットの使い方をすると騙される側になるわけで、歴史を知ってないと同じ過ちをするわけで、みたいな、なんか、答えの出ないお話ですけど、そういうことを見極めながら進められたらいい。

(ARG 下吹越)

第一章の一番初めで、「文化的施設の役割」を入れて、ここには基本構想で話し合われたことの、町民の皆さんからワークショップで出てきた意見を抽出してここに書いています。ただ、やっぱりこれだけじゃ足りない部分も基本計画の中で出てくると思うので、そういった部分を、サービス計画で具体的に、ネットとの向き合い方は図書館のどのサービスで解消もしくは改善していくかの計画を作るところが、まさにこの第三章に含まれているところでした。

それこそ核となるサービス目標に情報との付き合い方を学ぶ、町の歴史を学ぶサービスを取り込むですとか、そういうふうに具体的に落とし込んでいけばいいのかなと思います。

(ARG 岡本)

とまあ、そういう意味で言うと議論されていませんが、今までも議論に出てたところで言えば、もっと情報技術を積極的に活用しようという話が出てました。これは三地域をきちんと繋いでいくという意味でも欠かせないというお話と、これからの時代、地方だからこそそういった技術を活用することが地域の強みになるという議論があったので、そういう点が理念として語られてもいいのかなという気は、酒井さんのお話聞いて思いました。

特に、この時代にわざわざ箱モノを整備することの意味を考えた時に、そこが人の集う場っていうのは大事ですが、同時に、子どもだけでなく大人も含めて、デジタル情報社会で生き抜く力を身につけることができる場である。だからこそ最先端の技術は積極的に取り入れていくんだというのが、この時代において私たちが判断したことをきちんと後に伝えてくってことですよ。

それは将来、それこそ酒井さんたちのお子さんたちが大人になった時に、「うちの母さんたちはこういう考えで作ってくれたんだ」と分かる、将来の引継ぎになるものだと思います。

さっきお話しした猪谷さんの本で私も感動したのは、彼女が「子供が大きくなった時に自分の気持ちを知ってほしい」というのが非常に印象的で、我々がこれからまとめていく計画は格調高い文章ではなく行政文書なんですけど、でもあとで読んだ時に、この時代の私

たちの思いは何だったのかを伝えることはとても大事という気はしますね。

(内田委員長)

ありがとうございます。

他にはいかがですか？

では私から一点。スケジュールにあったんですが下吹越館長に来ていただく場合、実はこれは「職員向け」とあえて入れてるんですよ。職員たちをどうやって同時に育てていくかのスケジュールとか内容とか、実は大事になるんですよ。そういう点では、最後のスケジュールの所でも構わないですけど、職員の育成計画みたいなイメージも載せておきたいです。四章がいいのかどうかというのはありますが、四章でいいのであれば職員育成スケジュールを。開館したあとで育てていくのは無理なわけですよ？ その時にもう優秀な人がいるっていうそのスケジュール感はなきやいけないので、あってもいいかなと思ってますし、この下吹越館長に来ていただくというのは合わせてその一回でいいのかという。それでもう少し職員を高まっていたくような年間スケジュールも、講演会も当然来ていただけて一緒にやりましょうというメッセージなわけですけどね。そんなふうに思いますね。

(刈谷委員)

それに含まれることなんですけど、育成というか、人間の確保の方法というか、あと次の世代に若い人がたくさん関わってもらえるような、ちゃんとした雇用を確保していく対応を考えないと、やっぱりそこで働くのは人、職員さんなので、この中の「人を育てる」ところこそ一番大事なのかなと私は思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

今後協議をしていく中で当然そこは大事になってくるんですけど、今回のことと言えば管理運営に関わる部分ではありますけれども、現段階ではこういうふう書いてあるわけですけどね。

さっきのスケジュールのことと関連していけば、町民との協同のスケジュールみたいなのが必要で、ここだと運営の在り方で終わっちゃってますけど、そういう町民がどんどん増えていく計画こそ基本計画なんですよ。

おいおい第三章辺りから進めていくのが一番分かりやすいのかなっていうか、ありますけれども。

(山本委員)

ちょっと構いません？

今日せっかくだいい意見も出ていて、次の会に向けて取り組める提案がされたと思います。

それをぜひ取り上げていただきたいので、投書箱を、全員で協力して取り組んだらどうかと提案したいと思います。

(川添委員)

基本計画じゃないんですけど、スケジュールに帰って構いませんか？

30年度に中高生ワークショップがありますよね。私いま小学校なので、小学生も総合的な学習の時間に、「地域のために自分たちにできること」みたいな最終テーマで六年生は学習しますが、今年、窪川小学校、8名の町立図書館の子ども司書体験をした子どもたちがおりました。校内で色んな活動をして、この前の三月には一年間読み聞かせをしてくれた方に、子どもたちなりにお礼をするということで、ストーリーテリングなんかをスクリーンに映してやったんですけど、すごくいい取り組みということで、11月3日の米こめフェスタでやるイベントに子ども司書が活躍する場を設けるとか。

あと、小学校の国語には「できたらいいなこんなこと、あったらいいなこんなもの」みたいなものをイメージして書くみたいな学習もあるんですけど、そういうのをどこかで、今年読書感想画・読書郵便感想文で、図書館で将来こんなことができたらいいとか、美術館にこんなのがあったらいいなみたいなのを、小学生を対象に書かせて、イベント会場に飾ったりすると、子どもたちも、図書館・美術館が出来るとこんなことができるんだというイメージを持つし、子どもの内にそういうのを考えていると、大人になった時、「私が子供の時にイメージして出来た完成図がこれだ」みたいなのを語っていくので、整備だけでなく運営もずっと将来繋がっていく基礎ができるんじゃないかなというふうに、米こめフェスタを利用したらいいような気がしました。

(内田委員長)

この年間スケジュールを作る時にも、もっと広く情報を収集しながらスケジュールが入っていればよかったんですけど、当然、小学校でも読書や絵に関係する授業もあるし、やってるわけですよ。高校でも中学校でもそういうことをやってるわけですよ。そういうものを上手く集約できるような所になっていけば。ただ単に「読め」って言われるからやってるってなっちゃうんじゃないかと、やっぱりそういう意味で子どもたちにもやりがいを、出てくるでしょうね。そういうふうにもう一度ちょっとその辺のスケジュールを入れて次回に出せば、全体が見えてきますよね。四万十町全体がどういうふうに向けて関わりながら動いているんだという、そういうものが書けてたほうがいいですよ。

そういう意味で、小学校でぜひ積極的に入れていただいて。

(川添委員)

はい。今年はオーテピアに遠足に行く予定にしているので。子どもたちも結構図書館に触れるように。

(内田委員長)

それはいいですね。中高校も、大正も十和も何か動きが作れていたらね、いいですよ。教育委員会にもお願いする形で。

ありがとうございます。

(ARG 岡本)

なんかすごく夢広がって。

作文だけでなく絵でもいいと思うんですね。できればその計画書の中に子どもたちの絵を記録としてちゃんと取り込んでいくのがいいと思います。やっぱりそれ子どもたちからしたらすごい自信になることだと思いますし、あとずっと「自分が作った」って言えることって素晴らしいと思うんですよ。

やっぱりこういった町のプロセスに、子どもたちも町の一員ですから、関わってもらっていくっていうのはすごく将来へのいい投資だと思います。ぜひそれを実現したいですね。ぜひ図書館として美術館として大々的にショーをやって、毎年表彰してあげて、それこそその作品を新しく出来る文化的施設の掲示コーナーにバーンと展示してあげるとかしたら、すごい未来だなあって気がします。それは、外に行かなくたってこの中に素晴らしいものがあることを伝えることにもなるし、大人として私たちができることかなって気がしますね。

(ARG 下吹越)

保育園幼稚園や小学校の皆さんにも新しい図書館作りに関わってほしいという思いはまさに、西ノ島でも島民さんから意見がありまして。

これ工事が敷地内で行われてるんですけど、この仮囲いに、本の表紙に絵を描いて、未来の夢の図書館を作ろう、本棚を作ろうというプロジェクトを実際に行いました。これは全小学校・中学校・保育園、全島の皆さんにご協力いただいて、好きなように本の表紙の絵を描いてくださいと。今は図書館ないですけど、ゆくゆくは図書館に皆さんの本が置かれるような、そういうイメージでやったプロジェクトです。

やはりこういったことを通じて、一番よかったのは、小さい子にワークショップをさせるとなかなか難しいんですけど、でも彼らなりにできることってあったりしますし、彼らのほうがより想像力豊かに、こういうのあったらいいよねって気づかされることもたくさんあるので、ぜひこういった多様な形で子どもたちとも関われる方法も我々のほうでもやっていて、非常に効果を感じています。

実際にこの絵を掲示することで、おじいちゃんおばあちゃんに「この絵は自分が描いたんだよ」と言っている子どもたちが保育園で見られたんで、そういったことも今回、せっかく美術的な要素もある文化的施設なので、取り組んでいけると面白いんじゃないかと思いません。

(内田委員長)

ありがとうございます。

ちなみに小学校のほうは来年度のスケジュールはもう決まっていますよね。それを委員会と調整して加えていくようなことをしていければと思います。

先ほどの投書箱ですが、どういうふうにやっていきたいと思いますか。どこに置いたらいいか場所を委員会のほうに挙げていただくようにしましょうか。皆さんから投書箱をこことここここに置いてと提案していただいて。

あとは行政機関であれば、行政を通じて置くことができるでしょうけれども、民間施設になると、話をしにいかなければいけないとか、色々出てくるとは思うんですけども。

(酒井委員)

今はちょっと詰めて考えられないので、一旦持ち帰って、林課長なり味元副課長なりに。

(内田委員長)

ええ、ええ、ちょっとお話いただくのがよろしいんじゃないでしょうか。

とにかく、置こうという方向でやるということで、はい、いいですよ。

書いて出すとしたら様式も作らなきゃいけないですよ。応援団に入りたいとか、ご協力いただけますかとかいう辺りも。

それでお名前とご住所を書いていただく形になりますよね？ そちら辺の詰めは必要かと思えますけど。

(酒井委員)

様式が欲しいのかアイデアを出したいのかっていうのを、委員の皆さんに持ち帰ってもらって、それをどうやって最終的にこれで行こうっていうのを。

(内田委員長)

じゃあ最終的には私と事務局のほうで、こういうふうにさせていただくようにしたいと思うんですが、その前のアイデアを事務局のほうに言うておいていただくという形で。そうもう一度集まっていたらいいんですけど、わけにはいかないんで、できるだけ早く設置するように考えたいですね。

(酒井委員)

そうですね。アイデアのある方は日を決めて、この日までに林さんか味元さんにお伝えするようにして。そのあとのやり方についてはちょっと今思いつかないんですけど。

(刈谷委員)

箱を置くところが2点あって、1点は応援団とか育てる会を広範囲に渡って集めたい。それこそ興津とかに渡って。あの辺になったら私もさっぱり分からないし。でもコアな人は必ずいると思うんで、その方に届けたいっていうのと、集めたいっていうのと、この基本構想を作るに当たって、小学校とかでも小学生に言って集めるっていうのも大事ですし、米こめフェスタとか大きい講演会やイベントでどかんと集まらないと思うんですね。いきなりそういうことやっても。こう、参画できるんだよっていう場があるのとないのとでは、参画している意識が違うのかなって。私の意見を聞いてくれてるんだとか、聞いてくれてる場は一応設けられてる、共感じゃないですけど、そういう、その、実際集まる集まらないは別にしても、そういう開かれた場作りはそこここにあったほうが、いざ出来た時にいいんじゃないかなっていうの、あります。だからその場作りのためと、声を集めたいというのもあるので、何を書いてくださいっていう文言に関しては私も全然考えられてなくて、どんな施設がいいですかとかどんなネーミングがいいですかとか、色々あると思うんですけど、ある程度決めてあげてないと多分、書きようがなくて真っ白なまま。そこはちょっと皆さんのお知恵をお借りしたいなって思ってます。

やっぱり箱を置くだけじゃ、人を介してじゃないと目的は達せられないと思ったので。

(酒井委員)

箱プラス、図書館なら図書館の人に促してもらおうとか、学校なら先生とか、福祉施設ならその職員とか。並行してできたらいいのかな？

ちょっと思いつきで言ったので、もっとスマートな形があるかもしれないですけど。

(ARG 下吹越)

箱を置いてみて1か月くらい様子を見たら、5月に渡邊さんの研修があるので改めてそこで皆さんに周知するですとか、その際にパンフやプログラムのなものと合わせて折り込んでこういうものあるんですよと周知していくのがいいかもしれませんね。

もちろんさっきおっしゃった広報という基本の手段として非常に有効ですし。

ただ意見箱というのもあるけれど、昨今でしたらSNSとか。そしたら中高生は集まりやすいと思うので、意見箱という意見を集める方法はアナログとデジタル両方から考えられる。

こういうところをぜひ応援団にも関わっていただきたい広報活動の一環ですので、まずは意見箱をとりあえず置いてみて、手を着けられるところからやってみてっていうのはいいかなと思います。

(友永委員)

応援団っていうのは子どもも対象？

(酒井委員)

岡本さんに紹介していただいた図書館を育てる会的な市民団体を見たら、本を愛する人ならどなたでも参加してくださいと。もし団体が自立していくものであれば一口 1,000 円とか会費を求めるものになるかもしれないので、そこはまだ詰めてない段階ですけど。

それと団体で申し込まれるよりは個人名で申し込んでもらったほうが良いということだったので、子どもたちが個人個人で入りたければ、子どもは会費無しでもいいですし、なんかそんな感じで作っていただけたらなと思いますけど。

(ARG 岡本)

全体的に皆さんの意見が集まってくることは大事ですが、一つ現実的に考えておいたほうが良いと思うのは、手間です。誰がそれを回収し、誰がそれをまとめるのか。ちょっと役場の肩を持つと、壮絶に大変だろうなという気はするんですよね。ただでさえ町域が広い中で、窪川はここで、他は支所ごとにとというのはありますが。

というのと、あともうちょっと全体、要するに役場と町民のキャッチボールって感じではつまらない気がして、町全体に広がっていく仕掛けのほうが良いんじゃないかなって。つまり、伝言ボードのイメージですね。私はこんなことを考えている、というノートが次の人に渡る。それがぐるぐる回ってきて最後に一冊になるみたいな形、交換日記であったり、往復書簡的な。よく新聞であるじゃないですか。人を紹介するコーナーで、例えば私が下吹越を紹介し、下吹越が紙面に登場し、彼女の紹介じゃあ今度は酒井さんを紹介してという、人間を数珠つなぎにするやつですね。

瀬戸内市民図書館で見た方おられるかと思いますが、あそこの司書のおすすめ本コーナー、あれがまさにそうなんです。島田館長からまず一人にお願いして、その人からまた紹介って行ったら、果てには海外の人が入ってくるみたいなすごい流れになってて、あれは瀬戸内市の財産だと思うんですけど。

どうせだったら横に繋がる、もちろんそのプロセスの中で、今回は役場の誰それさんに書いてほしいとか、町長や議員さんにこのノートを渡したいとか。後々考えた時にそういったものが残ると、ちょっとすごい歴史になりませんか？

(刈谷委員)

それを利用体験ストーリーでしたら面白いかも。

(ARG 岡本)

ちょっとそれ、お時間を頂けると。どうせやるなら意見箱とかにしてしまうよりも、どんどんネットワークが広がっていくっていう。で、町民の皆さんに、賛成であれ反対であれ皆さんのお声が聞けるって形を取ると、それは本当立場も関係ないんです。小さな子どもでもいいし、まだ字は書けないが絵で描くでもいいわけですよ。それがちゃんと今から 2~3 年

間やり続けたら、多分ノート数冊になるんで、それ、新しい施設が出来たら宝ですよ。

(刈谷委員)

すっごいいいけど住所は書けませんよ。

(ARG 岡本)

あと途中で紛失するとかですね。

ちょっと周到に考えてやる必要がありますが、どうせだったらそう考えてやってくほうがいいと思います。誰それさんはこう考えてるんだとか、だって四万十町、小さいっていても結構な人住んでるわけで、当然誰が誰か全員が分かってるわけじゃないわけで、でも例えばスーパーでよく見かけるあの人ってこんな人でああこんな考え持ってるんだとか、というふうに横に繋がっていくと、整備していくプロセス自体が盛り上がる気がしますね。

(ARG 下吹越)

これだと酒井さんがおっしゃった「開かれた場」ですよ、広報でもできるかと思っいて。一つ目のサポーターを集めていくというのはまた別でこのノートを上手く使いながら、連絡先や申込用紙はここですとか、WEB上で申し込めるようなフォームを作っておくとか、もしくはお年寄りの方は電話をどなたかに一本入れるとか、色々踏まえてやり方は考えられると思います。

(内田委員長)

やり方も含めて、ちょっと、意味はありますのでね。

(ARG 下吹越)

目的も共有できたので、ちょっとこっちで考えてみますね。

(ARG 岡本)

下吹越が言った通り、お考えは分かりました。

それが結果的に全体で盛り上がっていった形で、それを米こめフェスタの時に会場に展示しておいて、「うわー！ 私が書いたあと、こんなにたくさんの方が書いてくれたんだ！」と思われるとか、名前だけ書いて、いい意見だなと思った相手とその場で会えるとか、そうなるとうまさに図書館と美術館の体験なんです。新しい施設が出来たらこういうふうに、同じ町内に住んでるけど見知らぬ関係だった人と出会えるってことが実現するんだということを体験してもらえるのかなと思います。

ちょっと考えてみます。

(林(一)委員)

とにかく、一番広い町ですのでね。隅々までいくんなら、そのノートっていうのは歴史に残ってすごくいいと思います。

(内田委員長)

では少しお時間を頂きますが、方向としてはそんな感じでやりたいと思います。

定刻が参りました。基本計画案の素案を出していただいておりますが、これをまた次回引き継いでやろうと思いますが、事前にどの辺りからやるかも含めてこっちで協議させていただいて、準備する形を取ればと思います。

日付としては4月21日の午後、時間帯は今日と同じくらいで。

(林(一)委員)

委員長、すいません。ちょっと提案させていただきたいんですが。

基本計画が出来るわけですので、それにぜひ入れてもらいたいことがあります。

私はこの委員会が出来るまでに十数年も、四万十町が出来るまでにも話したこともありますが、この計画の項目の中に、専門職員を置かなければいけないと出ていましたよね。「専門職員の育成、運営の在り方」については、特に継続性が必要な項目だと思っておりまして、前から町長などにお話ししてありますが、実現しておりません。ぜひ専門職員を、括弧しなくても構いませんが、学芸員を設置してほしいということで、継続性がありまして、そういう点で四万十町は遅れているように思ひまして、2年くらいには職員が変わりますので、私たちがだいぶ協力して(職員も仕事を)覚えた頃が変わりまして残念に思うことがありますし、それが先ほど言いましたように、貴重な資料が紛失したり、町外に出ていってもうどうにもならないということがあります。具体的には言いませんがそういうことがありまして、一貫性がないということですが、こういった苦勞して委員会を作ってですね、苦勞して苦勞して基本計画を作り、やがて立派な図書館・美術館が出来ると思いますが、その苦勞したことを分かっている職員がですね、一人は図書館に必要じゃないかと思ひます。学芸員だとか。そういったことで、できればこの委員会の立ち上げをして、色々論議して苦勞したことが分かる職員がいましたら、その方を異動せずに定年まで残ってもらおうと。そして色々、町民から期待されて「こんなことはどうか」と問われた時に、ずっと自信を持って答弁できるようですね、一人は、こういう町ですのでね、必要だと思います。この際にぜひ実現できるようにですね、苦勞してこうして委員と一緒に勉強して起ち上げたその状況が分かる方をぜひ残しておいてほしいと。

そして小学校からも出ていましたように、生涯学習も必要ですし、それがひいては四万十町を、町に残っていただける活性化にも繋がると思ひますので、ぜひその項目を入れていただいて実現できるように、一つ次長と課長にも知っていただいでですね、あの時に話し合うことができたと言えるような来年再来年にしていただきたいので、皆さんの賛同を頂きた

いのですが、どうでしょうか。

(内田委員長)

おっしゃってることは全く関係ないことではありませんし、賛同というか、今のは第三章やストーリーにも反映することですし、むしろ今のことを案の時に意見を出していただくようなことが必要なんだなというふうに思っておりますので、別に皆さん賛同とか、何も違和感ないんじゃないかと。大事な点を言われてまして、自治体職員にとってもこの施設が出来るっていうことが大切です、持続可能性を考えた時にどういう体制が望ましいのか、そういう視点は大事なので、その通りですので、これからも議論していきたいと思います。

(刈谷委員)

「一人でいいので」と言わず人数を限定しないでいいかなと思いました。

(酒井委員)

私はその、今までの切実な過程なんかもあったりして、すごく大事な点だというのと、もう一つ。一人や特定の人にだけ寄ってかかると、どうしても仕組み的に上手く回らない時が必ず来るので、みんなが共有できて、知的財産としたものや、情熱的なものが違うからそこに懸けるものが違ってくると思いますが、きちんと回っていく仕組み自体は、永続的に人を回さなきゃいけないというとは別に、作っていかないといけないと思いました。

(内田委員長)

そこはこれから論議して、目指しているものは同じだと思いますので、どういう体制が実際は望ましいのかは、むしろこれから協議していければと思います。

(ARG 岡本)

司書や学芸員と縛って考えるんじゃなく、まさに何をしたい場所であって、それをサポートしてくれる人はどういうキャラクターや技術を持っている人なのか、考えていくのが良いと思います。

それからさっき言われた情報技術については、そこに強いことも大事になってくると思います。ミュージアムって広さを考えた時には、学芸員のスキルだけじゃなくて、最近はそのようなミュージアムエデュケーションというんですが、美術品の価値とか理解を深めるのをお手伝いしてくれる人、そういう能力も必要になるかと思うんで。

たぶん何が欲しいかを議論していくかは、必然的にそこにどういう人が欲しいかにちゃんと繋がっていくと思います。

問題は、その実現には金がかかることですが、それは私どもで冷静に試算できるんで、もしそれを新規に雇用した場合、どれぐらいコストがかかるかを見極めて、最後は町の皆さん

の意思の問題なんですね。そこに税金を充てることに異論がなければそれは通せます。そこを最後に見極める必要があります。

普通に考えたら、今よりも図書館・美術館にかかるコストがかさむのは間違いないですね。ただしそれだけの価値を引き出すものだと考えれば、私たちのような仕事をしている者からすれば大いに結構だと思うんですけど、そう考えない町民も必ずいらっしゃるので、その方々が納得する理屈を付けていく必要があるかなと思います。

(内田委員長)

ありがとうございました。

色々考えていかなきゃいけませんけど、だからといって遠慮して発言しないとか、そういうものが制約になってはいけないわけですし、基本計画については皆さん自由にご発言いただいて、それらを形にしていければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは今日の会議はこれにて閉めさせていただきたいと思います。

事務局からお願いします。

(熊谷次長)

教育次長の熊谷敏郎と申します。今回は最後の委員会ということで、教育委員会事務局を代表して挨拶を申し上げたいと思います。

今日は土曜日、ほとんど半日割いていただいて、ご出席いただき、熱心に検討していただいたわけでございます。事務局は隅に寄ってあえて、委員さんにご発言をいただくという形を取っております。

名前も「文化的施設」とざっくりにして、可能性をどんどん盛り込めるように、その名前で委員会を回していくわけでございます。

スケジュールの中で、来年度は計画に入って、いよいよ具体的になっていくわけであります。すると皆様の肩が凝っておりますよね？ そういったところは私たちがしっかりとビジョンにしながら、議会に説明していかなければならないです。最終的に民意を以て判断するのは議会でありますので、議会の議決がないと、建てる予算だけではなくて検討する予算さえもつかないと。そしてその条例も通らないということになりますので、しっかりした指導を以て当たる必要があります。

そういったミッションは私どもが担いますので、皆さんにおいては、今まで構想を立てていただいたように、気楽に、どんどん夢を語っていただきたいと思います。そして最終的には当然予算になるわけですが、そこはまた一つ一つクリアしまして、具体的なものにしていただきたいと思います、作っていただきたいと思います。

皆さんの意見をどんどん引き出させていただきました内田先生におかれましては度重なる思いで本当にありがとうございました。

そして（ARGの）お二人には本当に助けていただいてありがとうございました。

本当に、検討会の名にふさわしい席が、これまで何回も持てたことと思います。改めてお礼申し上げます。

それでは、これまでの検討委員会の、皆様のご尽力に対して心から感謝申し上げますと共に、また来年も委嘱させていただきますので、ぜひまた熱心な検討をしていただくことをお願いいたしまして、閉会のご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

(事務局)

それでは今回の会を終わります。皆様、お疲れ様でした。

3. 閉会